

教学の手引き

2011

中国文学専攻

文学部

Table of Contents

中国文学専攻

I 中国文学専攻 教学紹介

1	教学理念・目標	3
2	履修の仕方	3
3	履修モデル	5
4	科目概要	9
5	中国文学研究入門について	11
6	卒業論文について	16
7	共同研究室と人文系文献資料室（文献資料室）の利用について	20
8	その他	23
9	中国文学を学ぶための参考書（主として日本語で書かれた図書）	23
10	中国文学関連Webサイト	38
11	中国文学基本書解説（50音順）	39

II 科目一覧と履修方法

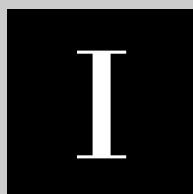
1	科目一覧	46
2	履修方法	47

「教学の手引き」の使い方

「教学の手引き」は、専攻・プログラムにおける皆さんの学びの指針となるものです。毎年配布される履修要項とあわせて、履修に役立ててください。

この「教学の手引き」は、皆さんが卒業するまで使用するものです。再配布はしませんので、大切に保管してください。

記載内容に変更・追加がある場合は文学部ホームページ（URL : http://www.ritsumei.jp/lt/lt07_j.html）や掲示で随時発表しますので、定期的に確認をしてください。



中国文学専攻 教学紹介

中国文学は本来英米文学などと同じ外国文学ですが、我が国には「漢文学」の永い伝統がありますので、今も、いわゆる「漢文」を中国文学と見ている人が相当多数存在しています。しかし、この「漢文」はあくまで中国文学の一側面に過ぎず、三千年の歴史を有する中国文学は各分野に膨大な文学遺産をのこす一大世界文学なのです。中国文学を学ぶ諸君は、どの分野を選ぼうとも、必ずや興味深い未知の世界にわけ入る興奮を感じるでありましょう。

中国文学専攻では、「古典」の学習を縦軸として位置づけ、1～3回生の小集団教育においては「古典」を課しています。これは、悠久の歴史をもつ中国文学の性質上、たとえ現代の文学や思想を研究する場合においても、「古典」の学習が必須であるとともに、他国には見られない「漢文学」の良き伝統を活かし、独自の中国文学研究を発展させるためにも甚だ有益であるからです。それはまた、将来、教職などにつく場合は勿論のこと、一般に「国文学」をはじめ、わが国の文化全般を考える上においても、中国の「古典」を学習することは最も重要であるからです。

さらに中国文学専攻では第一外国語として中国語を必須としています。それは、中国語の学習が専攻教学の横軸をなすものと位置づけているからです。とりわけ現代文学・思想を学ぼうとする場合は、とくに中国語の学習に努力し、その上で現代文学関係の講座を受講し、翻訳に頼ることなく、直接作品を分析・検討する力をつける必要があるからです。

1 教学理念・目標

東アジアは世界に誇る文化圏です。この地域のそれぞれの民族は独自の文化を発展させてゆきつつも、たがいに漢字文化によって結ばれていました。漢字文化の発源地は中国です。漢字は紀元前11世紀ごろ生まれ、後に字体は変わることがあっても今日まで用い続けられ、3000年間にすぐれた文学や思想が多く生まれました。司馬遷、陶淵明、李白、杜甫、白楽天、蘇東坡、劉備・諸葛孔明等が活躍する小説『三国志』、近代の魯迅、また孔子、老子・莊子の思想など数えきれません。これほどの歴史と豊かさをもつ文学・思想は、他に見られないでしょう。中国の文学や思想は、漢字文化圏の他民族に大きな影響を及ぼしてきました。そして現代の日本にも漢字文化が深く根付いていることは言うまでもありません。

中国の文学・思想は世界に誇るべき人類の文化遺産であります。伝統をよく理解し、今を見据えてこそ、未来の展望が開けるものです。ここに中国文学や思想を学ぶ大きな意義があります。中国では古代から現代に及ぶまで、文学、思想あるいは文化・芸術の領域に興味深い人間の営みが多様に表されています。人の世のことは、おおよそ中国に備わると言えるほどです。学生諸君それぞれの知的関心は本専攻の学修を通して満たされ、そして培われた人間考察は、将来いずれの分野で活躍する場合においても有意義に違いないでしょう。4年間の系統的な学びを通して、中国の悠久の歴史に育まれた文学や思想に広がるさまざまな問題を探求し、過去から現在に及ぶ文化的営みについて、豊かな知識を習得して理解を深め、日本のみならず、世界的な規模で活躍できる人材を育成することを目指します。

具体的には、文学部の人材育成目標に加え、本専攻では次のような人材を養成することを目標としています。

- (1)中国の文学や思想、言語について、積極的に知識を広げ、理解することができる。
- (2)中国の文学や思想に対してさまざまな関心を持ち、その関心に応じて諸作品や諸資料を読解して自ら問題点を見し、調査・研究を進めることができる。
- (3)中国の文学や思想、言語の学習とおして、日本をはじめとする周辺諸国や諸外国の文学・思想・言語にも関心を広げ、世界的な視野から比較考察することができる。
- (4)中国の文学や思想についてのさまざまな研究方法を習得して、研究の成果を口頭や文章で発表することができる。
- (5)古典および現代の中国語を習得し、中国の文学や思想を理解したり、またコミュニケーションの道具として使用することができる。

2 履修の仕方

【「古典」の学習】

中国文学専攻では、一つには「古典」の学習を重要視し、これを専攻教学のいわば縦軸と考えています。なぜな

らば悠久の歴史をもつ中国文学の性質上、たとえ現代の文学を研究する場合においても、「古典」の学習が必須であるとともに、他国には見られない「漢文学」の良き伝統を活かし、独自の中国文学研究を発展させるためにも甚だ有益であるからです。それはまた、将来、教職などにつく場合は勿論のこと、「日本文学」をはじめとして、わが国の文化全般を考える上においても、中国の「古典」を学習することは極めて重要だからです。

【中国語の学習】

本専攻は、もう一つに中国語の学習を重視しており、専攻教学の横軸をなすものと位置づけています。そのため第一外国語として中国語を必須としています。とりわけ現代文学・思想・文化を学ぼうとする場合は、とくに中国語の学習に努力し、その上で現代文学や文化関係の演習や講座を受講し、翻訳に頼ることなく、直接作品を分析・検討する力をつける必要があるからです。中国語では、1・2回生で受講する第1外国語科目として中国語、さらに3回生では外国文化講読（中国語）が用意されています。現代文学を卒業論文の対象とする者は、必ず「中国近現代文学講読演習Ⅱ」を受講すると同時に、着実な語学力を養っておくことが望まれます。なお、副専攻の中国語の履修も積極的に取り組んでください。また「中国語検定対策講座」が設けられていますし、孔子学院開設の中国語講座も積極的に受けることを推奨します。

【専攻の必修科目・登録必修科目】

4年間の専攻科目における履修は、一回生の「研究入門」以降、4回生「中国文学・思想演習」に及ぶまでの必修科目・登録必修科目の系統的学びを主とします。基礎的知識の習得の入門段階から始まり、回生を追うごとに深い問題探求へと進む系統学習が組み立てられています。

【専攻の講義科目】

専攻科目における必修科目・登録必修科目の履修に加え、専攻の講義科目として「中国文学史Ⅰ・Ⅱ」「中国文学史Ⅲ・Ⅳ」「中国哲学史Ⅰ・Ⅱ」「中国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ」「中国近現代文化特殊講義Ⅰ・Ⅱ」を設けています。これらは、中国文学・中国哲学に関する個別的多岐にわたる特殊専門的な問題を取り上げて、最近の研究状況や研究法を詳細に講じるものです。個別専門的な研究の状況や研究法を学び、各自の研究課題の発見や解決に大いに役立ちます。これらは中国文学の研究を進めていく上に直接必要な科目ですから、配当 Semester の2回生以降に、できるかぎり多く受講して、広範な専門知識の修得に努めてください。

【他専攻開講科目】

本文学部には、1996年度より従来の専攻単位では包括しきれない学際的な分野を研究するインスティテュート（現学際プログラム）が新設されました。中国文学専攻の諸君もこの学際プログラムの開設する講座を受講することができます。中国文学を専攻するものも単に専攻開設の講座のみに満足することなく、可能な限りインスティテュートを始め、他専攻開設の講座を受講し、広範な情報を摂取・処理する方法を習得し、自らの学習・研究に利用し、向上に努めるべきです。そうした意味から、学際プログラム科目に設置されている「比較文化講義Ⅰ・Ⅱ」、「社会思想史」、「オリエンタ美術史」、「比較文学論Ⅰ・Ⅱ」、「人間と環境」、「歴史認識・叙述の諸問題」、「文化人類学Ⅰ・Ⅱ」あるいは東洋史専攻の「東洋史概説Ⅰ～Ⅳ」などは中国文学を学習・研究する上において有益なものと考えられます。

※後掲の「履修モデル」(p.5～)を必ず参照すること。

【漢字教育士認定講座】

白川静博士の文字学に基づく体系的な漢字教育の普及と教育者の育成を目的とし、2011年度より「漢字教育の専門的知識と技能」を体系的に学習することのできる、本学の白川静記念東洋文字文化研究所（略称「白川研」）が主催する講座です。本専攻の学生諸君は学部開講科目の漢語・漢文法Ⅰ・Ⅱ、中国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱのほか、「白川研」が実施する「漢字教育研修」（8時間）を受講し、所定の手続きを経て「漢字教育士」の資格（研究所が独自に認定する任意の民間資格）が認定されます。重要度が増す漢字教育に携わる際に有効な資格になると考えられますので、受講を推奨します。詳細については別途、説明の機会を設けます。なお、資格認定には、所定の費用が必要です。

3 履修モデル

モデル1：古典文学

学年	科目区分	必修科目	登録必修科目	専攻科目	専攻科目・他専攻・人文科学総合講座等の科目	資格課程・副専攻等
1 回 生		漢語・漢文法Ⅰ・Ⅱ 中国文学研究入門	リテラシー入門 (教養)	中国文学史Ⅰ 中国文学特殊講義Ⅰ	社会科学入門 (教養) 生物の多様性 (教養) 歴史観の形成 (教養) 白川学の世界 (教養) 新しい日本史像 (教養) 言語学Ⅰ (人文) 宗教学概論Ⅰ (人文) 文化人類学Ⅰ (学際) 比較文化講義Ⅰ (学際) 民族と文明の美術史 (学際) 現代社会と法 (教養) 自然と進化 (教養) 言語学Ⅱ (人文) 中国史概論 (人文) 宗教学概論Ⅱ (人文) 文化人類学Ⅱ (学際) 比較文化講義Ⅱ (学際)	
			中国文学概論Ⅱ			
2 回 生		中国文学基礎講読	中国文学史Ⅱ 中国文学特殊講義Ⅱ	中国文学史Ⅰ (中国語) 専門中国語Ⅲ (中国語) 中国語コミュニケーションⅠ (中国語)	東洋思想Ⅰ (人文) 神話学Ⅰ (人文) 日本文学とアジア (日文) 東洋史概説Ⅰ・Ⅱ (東史) 文化とポストコロニアル批評Ⅰ (学際)	専門中国語Ⅱ (中国語) 専門中国語Ⅳ (中国語) 中国語コミュニケーションⅡ (中国語)
3 回 生		中国文学講読演習Ⅰ 外国文化講読 (中国語) (人文) (2008年度以前入学生のみ) (登録必修)	中国哲学特殊講義Ⅰ 中国文学史Ⅲ 中国哲学特殊講義Ⅱ 中国文学史Ⅳ	専門中国語Ⅴ (中国語) 専門中国語Ⅵ (中国語) 中国語コミュニケーションⅢ (中国語)	ヨーロッパ文学史Ⅰ (学際) 比較文学論Ⅰ (学際)	専門中国語Ⅶ (中国語) 専門中国語Ⅷ (中国語) 中国語コミュニケーションⅣ (中国語)
4 回 生		中国文学・思想演習 卒業論文				

このモデルのテーマ：特に中国の古典文学に知的関心を持つ皆さんは、この履修モデルを参考にしてください。漢字・漢文(古典語)に関する知識の習得を基礎として古典文学を学び、また中国思想や日本文学、東アジアや欧米各国の文学・文化についての科目も積極的に履修して、言語文化に関する知見を広げていきます。また古典語だけではなく、現代中国語の習得も重要です。中国語副専攻の履修もぜひ視野に入れて下さい。

凡例：教養科目 (教養)、人文科学総合講座 (人文)、学際プログラム (学際)、日本文学専攻 (日文)、東洋史学専攻 (東史)、中国語副専攻 (中国語)

モデル2：現代文学

学年 科目区分	必修科目	登録必修科目	専攻科目	教養科目・他専攻・人文科学総合講座等の科目	資格課程・副専攻等
1 回 生		漢語・漢文法Ⅰ・Ⅱ 中国文学研究入門	リテラシー入門（教養） 中国文学概論Ⅰ	生物の多様性（教養） 現代の国際関係と日本（教養） 白川学の世界（教養） 言語学Ⅰ（人文） 東洋史概説Ⅳ・Ⅴ（東史） 比較文化講義Ⅰ（学際） メディアと現代文化（教養） 現代社会と法（教養） 自然と進化（教養） 美と芸術の論理（教養） 現代の世界経済（教養） 文学と社会（教養） 東アジアと朝鮮半島（教養） 言語学Ⅱ（人文） アジアの文学（人文） 中国史概論（人文） 比較文化講義Ⅱ（学際）	
			中国文学概論Ⅱ		
2 回 生	中国近現代文学講読演習Ⅰ	中国文学基礎演習	中国文学史Ⅰ 中国近現代文化特殊講義Ⅰ	社会言語学Ⅰ（人文） 日本演劇論（人文） 日本文学とアジア（日文） 近現代の諸相（学際） 文化とポストコロニアリズムⅠ（学際）	専門中国語Ⅰ（中国語） 専門中国語Ⅲ（中国語） 中国語コミュニケーションⅠ（中国語） 現代中国研究Ⅰ（現代） 現代中国特別講義Ⅰ（現代） 現代中国海外実習（現代）
			中国文学史Ⅱ 中国近現代文化特殊講義Ⅱ	社会言語学Ⅱ（人文） 文化とポストコロニアリズムⅡ（学際）	専門中国語Ⅱ（中国語） 専門中国語Ⅳ（中国語） 中国語コミュニケーションⅡ（中国語） 現代中国研究Ⅱ（現代） 現代中国特別講義Ⅱ（現代）
3 回 生	中国近現代文学講読演習Ⅰ	中国近現代文学講読演習Ⅱ 外国文化講読（中国語）（人文） （2008年度以前入学生のみ） （登録必修）	中国文学特殊講義Ⅰ 中国文学史Ⅲ	ヨーロッパ文学史Ⅰ（学際） 都市と農村（学際）	専門中国語Ⅴ（中国語） 専門中国語Ⅶ（中国語） 中国語コミュニケーションⅢ（中国語） 現代中国研究Ⅲ（現代）
			中国文学特殊講義Ⅱ 中国文学史Ⅳ	ヨーロッパ文学史Ⅱ（学際） 現代美術論（学際）	専門中国語Ⅵ（中国語） 専門中国語Ⅷ（中国語） 中国語コミュニケーションⅣ（中国語） 現代中国研究Ⅳ（現代）
4 回 生	中国文学・思想演習 卒業論文				

このモデルのテーマ：中国の近現代文学や文化に関心を持つ皆さんは、この履修モデルを参考にしてください。漢字・漢文（古典語）の習得に加えて、白話や現代中国語をしっかりと学び、中国思想や東アジアの近現代史、国際関係、国際的視野の涵養に努めます。中国語の副専攻やエリアスタディ副専攻の「現代中国コース」の履修にも、ぜひ積極的に取り組んで下さい。

凡例：教養科目（教養）、人文科学総合講座（人文）、学際プログラム（学際）、日本文学専攻（日文）、東洋史学専攻（東史）、中国語副専攻（中国語）、エリアスタディ副専攻現代中国コース（現代）

モデル3：思想

学年	科目区分	必修科目	登録必修科目	専攻科目	教養科目・他専攻・人文科学総合講座等の科目	資格課程・副専攻等
1 回 生		漢語・漢文法Ⅰ・Ⅱ 中国文学研究入門	リテラシー入門（教養） 中国文学概論Ⅰ 中国文学概論Ⅱ		哲学と人間（教養） 社会学入門（教養） 生物の多様性（教養） 論理と思考（教養） 白川学の世界（教養） ジェンダー論（教養） 生命科学と倫理（教養） 言語学Ⅰ（人文） 宗教学概論Ⅰ（人文） 文化人類学Ⅰ（学際） 自然と進化（教養） 人間性と倫理（教養） 言語学Ⅱ（人文） 宗教学概論Ⅱ（人文） 中国史概論（人文） 文化人類学Ⅱ（学際）	
2 回 生	中国文学講読演習Ⅰ	中国文学基礎演習		中国哲学史Ⅰ 中国文学史Ⅰ 中国哲学史Ⅱ 中国文学史Ⅱ	民俗学Ⅰ（人文） 東洋思想Ⅰ（人文） 西洋思想Ⅰ（人文） 東洋史概説Ⅰ・Ⅲ（東史） 社会思想史（学際） 民俗学Ⅱ（人文） 東洋思想Ⅱ（人文） 西洋思想Ⅱ（人文） 東洋史概説Ⅱ（東史） オリエンタル美術史（学際）	専門中国語Ⅰ（中国語） 専門中国語Ⅲ（中国語） 中国語コミュニケーションⅠ（中国語） 専門中国語Ⅱ（中国語） 専門中国語Ⅳ（中国語） 中国語コミュニケーションⅡ（中国語）
3 回 生	中国文学講読演習Ⅰ	中国文学講読演習Ⅱ 外国文化講読（中国語）（人文） （2008年度以前入学生のみ） （登録必修）		中国哲学特殊講義Ⅰ 中国文学特殊講義Ⅰ 中国哲学特殊講義Ⅱ 中国文学特殊講義Ⅱ	人間と環境（学際） 歴史認識・叙述の諸問題（学際） 現代美術論（学際） 民族誌の諸問題（学際）	専門中国語Ⅴ（中国語） 専門中国語Ⅶ（中国語） 中国語コミュニケーションⅢ（中国語） 専門中国語Ⅵ（中国語） 専門中国語Ⅷ（中国語） 中国語コミュニケーションⅣ（中国語）
4 回 生	中国文学・思想演習 卒業論文					

このモデルのテーマ：中国の思想・芸術などに興味を持つ皆さんは、この履修モデルを参考にして下さい。漢字・漢文（古典語）や現代中国語の習得に努めながら、東洋・西洋哲学、倫理学、宗教学、歴史学などの関連科目を履修して、豊かな人間考察力を培っていきます。また古典語だけではなく、現代中国語の習得も重要ですので、中国語副専攻の履修もぜひ視野に入れて下さい。

凡例：教養科目（教養）、人文科学総合講座（人文）、学際プログラム（学際）、東洋史学専攻（東史）、中国語副専攻（中国語）

本専攻は、中国の悠久の歴史に生まれ、文学と思想の豊かな世界に広がるさまざまな問題を探求し、東アジアの伝統文化への理解を深め、日本のみならず、世界的な規模で活躍できる人材の育成を目指しています。

前述の履修モデルを参考にした本専攻での四年間の学修は、将来いずれの分野で活躍する場合においても有意義でしょう。

特に卒業後の具体的な進路を想定している皆さんは、次の希望進路別モデルも参考にして下さい。

○中学・高等学校国語科の教員、図書館司書、博物館学芸員をめざす諸君

「モデル1 古典文学」または「モデル3 思想」の履修を中心に据え、各自の知的関心に応じて適宜他のモデルを参考にすると良いでしょう。教職志望学生の専門科目履修においては、将来の漢字・漢文教育あるいは日本文学作品の授業を考え、古典に重点を置くことが望まれます。司書・学芸員志望者も同様です。またパソコンを利用した情報処理能力は各方面の職種において要請されていますので、それに対応する科目も受講すべきです。さらに、より高度で専門的な知識の習得をめざし、大学院博士前期課程への進学も視野に入れて下さい。

○公務員、一般企業（たとえば対中国貿易会社・旅行業など）への就職をめざす諸君

各自の知的関心に応じて前述の三モデルのうちの一つを中心に据え、適宜他のモデルを参考にすると良いでしょう。国際的な活躍の場を広げるためには、中国語の能力に磨きをかけることも大切です。またパソコンを利用した情報処理能力を涵養する科目の受講や、エクステンション・センターでの受講も役立ちます。

○一般企業（たとえばマスコミ・出版・文化関係など）への就職をめざす諸君

「モデル2 現代文学」の履修を中心に据え、各自の知的関心に応じて適宜他のモデルを参考にすると良いでしょう。応用的な中国語能力の習得に努め、できれば語学留学も行うという積極性も必要です。またパソコンを利用した情報処理能力を涵養する科目の受講や、エクステンション・センターでの受講も役立ちます。さらに、より高度で専門的な知識の習得をめざし、大学院博士前期課程への進学も視野に入れて下さい。

○大学等の研究教育機関で研究・教育職につくことをめざす諸君

各自の知的関心に応じて前述の三モデルのうちの一つを中心に据え、適宜他のモデルを参考にすると良いでしょう。研究のためには中国学の広範な知識を備える必要がありますので、他分野にもわたる意欲的な履修が望まれます。研究の重要な基盤は文献読解力ですから、その養成に努めなければなりません（大学院の開講科目「中国書講読」を学部の「中国文学講読演習Ⅰ」との共通開講にしているので、それを履修するのが望ましい）。また白話系の研究を目指す人はもちろん、古典研究を志向する者にも高い水準の語学力が求められていますので、中国語副専攻を履修するなど徹底した中国語学習に励んでほしいものです。

4 科目概要

【専攻の必修科目・登録必修科目】

1 回生

「中国文学研究入門」(登録必修科目・コア科目)

この科目は、中国文学の主流である漢詩の歴史を通して、中国文学研究の意義・目的・方法を学習し、広く専門的基礎知識を確実に修得することを目標としています。比較的馴染み易い詩のジャンルを中心に、主として日本語で書かれた文献によりながら、詩経から清代までの韻文の歴史や各時代の特徴・問題点を学び、中国文学研究に必要な基礎資料・工具書および基礎知識・研究法を学習します。授業は、グループ研究の発表形式を軸として展開されます。レジュメ作成によって文章力をつけ、論理的思考力も養い、そしてレジュメを活用した口頭発表でプレゼンテーション能力を向上させます。

「漢語・漢文法Ⅰ・Ⅱ」(登録必修科目・コア科目)

近年、高校で漢文の学習が不足していることを考慮して、初歩的な漢文読解力をつける目的で設けられた科目です。古典漢語で記された文学・思想作品を読む力をつけることを目指し、学びの重要な基礎作りを行います。漢字と漢語の基礎知識・漢文訓読の方法・漢文法の基本を習得し、訓点本、標点本さらに進んでは白文で散文を読み実力を養成します。また、現代語の語法と比較して古典漢語の文法を深く理解するよう留意します。

「中国文学概論Ⅰ・Ⅱ」(1回生以上配当 登録必修科目 コア科目)

内容は、ジャンル別に中国古典文学の展開を概説するものになっており、中国文学の豊かな世界を見渡し、幅広い基礎知識を習得できる講義です。「研究入門」では詩が中心ですから、その他のジャンルの作品は、この「概論」によって把握し、中国文学の特徴などの理解に努めてください。

2 回生

「中国文学基礎講読」(登録必修 コア科目)

散文の歴史や各作家の特徴・問題点を学ぶことを通し、正確で緻密な読解力の養成と基礎的な研究法を獲得することを目指とするゼミです。漢文や中国語で書かれた文献によりつつ、漢から近世の各種文体の散文を読解することを通じて、その歴史の変遷を学習します。1回生「研究入門」と同様、専攻だけで受講し、グループ研究の発表形式で行うものから、ぜひ読解力の向上のみならず、研究方法の習得にも努め、活気あるクラスづくりを目指してください。

「中国文学講読演習Ⅰ」「中国近現代文学講読演習Ⅰ」(2回生以上配当 必修科目 コア科目)

中国文学で扱う文献は主として漢文あるいは中国語で書かれています。翻訳に頼るのではなく、原文を正確に読解する力がなければ、研究に支障をきたします。この中国文学研究必須の正確な読解力を養成するために「中国文学講読演習Ⅰ」「中国近現代文学講読演習Ⅰ」が設けられています。「中国文学講読演習Ⅰ」は複数開講され、古典の韻文、散文を対象とするものに分かれます。ただし、この原則は担当教員の専門分野や学生諸君の要望などを勘案して変更する場合があります。なお「中国文学講読演習Ⅰ」もしくは「中国近現代文学講読演習Ⅰ」は、3回生においても必修として1科目選んで履修しなければなりません。

3 回生

「中国文学講読演習Ⅱ」「中国近現代文学講読演習Ⅱ」(登録必修科目 コア科目)

2回生までに中国文学の基礎知識を修得したものが、さらに一歩進めて、作家や作品の真相を究明するために必要な知識や方法を修得するべく、さまざまな訓練をする場です。具体的には各種文献の調査や閲読を通じて原典を正確に読解し、また先行研究の成果を把握し、文学史上の問題点を見つけ出し、それを追究することを目標としています。「中国文学講読演習Ⅱ」は、古典の文学あるいは思想を対象とするA、B2クラス編成です。

4 回生

「中国文学・思想演習」(2006年度以前入学生は「中国文学演習」)(必修科目 コア科目)

四年間の総決算である卒業論文を独自性のあるものに仕上げるとともに、他者の多様な考え方を学び、柔軟な思考力を修得し、その成果を口頭発表や文章化できる能力を養い、社会に適應する有用な人材に成長することを目標としています。授業の進め方は、各自のテーマにそった資料の収集と解説、難解な文献の会読、関連論文の合評などを通じて、問題点を整理し、論文の書き方を学ばせるとともに、順次中間発表をさせる形式をとります。この「演習」は、A、B、Cの3クラスに分け、A、Bは古典文学・思想、Cは近世白話・現代文学を対象とします。A、Bは担当教員の専門分野と学生諸君の研究テーマを勘案しつつ、時代を六朝以前と唐以後に分けます。3回生を終える前に、ほぼ自分の研究テーマを決め、自分のテーマに合ったクラスが選択できるようにしておく必要があります。

【卒業論文】(必修科目)

卒業論文は、4年間学んだ成果の総仕上げです。全力を傾注して、悔いのない研究論文にまとめてください。研究テーマは、3回生を終える前には、ほぼ決定し、4回生演習の登録時に迷わないようにしておくべきです。新年度のはじめ頃にテーマを担当教員に報告し、具体的指導が受けられるように準備しておくことを望みます。先人の研究成果は、京都大学人文科学研究所編『東洋史研究文献類目』(1934～62)、『東洋学文献類目』(1963～)、「日本中国学会報」学界展望(1950～)、『中国文学研究文献要覧』戦後編(1945～77)などによって知ることができます。中国文学関係の専門誌の多くは、本学図書館・人文系文献資料室でも収集していますが、専門誌以外に掲載された論文等のうち、1964年以降のものは、『中国関係論説資料』に複写収録されています。資料のなかには、すぐに入手できないものもありますから、早くから準備しておくことが大切です。なお京都大学人文科学研究所付属漢字情報研究センターでは「東洋学文献類目検索」「全国漢籍データベース」をWeb上に公開しており役に立ちます。このほか、後述の「6 卒業論文について」や「9 中国文学を学ぶための参考書」「10 中国文学関連Webサイト」を参照してください。参考までに卒業論文のテーマの例を挙げてみましょう。

〈卒業論文のテーマ例〉

古典文学では、例えば六朝の陶淵明、唐代の李白、杜甫、李賀、白居易、宋代の蘇軾といった詩人などについて、各自が生きた時代やそれぞれの生涯を通し、また文学史を視野に入れて各詩人の文学的特質を考察する作家論的研究が従来多く行われてきました。この方法は近・現代文学研究でもおおそ同様で、魯迅などを対象に様々な研究が行われています。また一つの題材が時代の流れによって様々な展開を見せてゆく過程を追求することで、中国の文学や文化、民族性の特色を浮き彫りにするという研究もあります。「龍」を問題に取り上げるのも面白いでしょうし、梅などの「花」が時代によってどのように詩に詠われていったか変遷を探るのも興味深いでしょう。近世白話文学に関心を寄せる諸君も多くいます。例えば『三国志演義』の関羽が神格化される過程を研究することは、中国民衆の心や宗教観を理解する一つのよい手がかりを与えてくれます。また現代文学関係では、魯迅と近代中国との関係、また現在盛んなインターネット文学も興味深い対象となるでしょう。

思想の領域では、近年、竹簡や帛書といった文献の出土発見が相次ぎ、これらを用いた古代思想の研究が盛んです。いま思想分野は、最新の資料で古代思想をあらたに考察する「清新」な研究領域になっています。

近年の傾向としては、中国茶や料理を研究したり、あるいは活況を見せている中国映画を取り上げたりした文化的方面の卒業論文が増えています。中国文学専攻の研究テーマは中国の大地同様に広大で、文学、思想、文化、芸術(例えば書法・音楽)など様々な分野に広がっていますし、さらには漢字文化圏に属する日本との関係にも及んでいます。知的関心を誘うテーマは無数にあるといえます。ただ皆さんに求められるのは、興味をもって意欲的に学ぼうとする志と実行です。

【専攻の講義科目】

「中国文学史Ⅰ・Ⅱ」「中国文学史Ⅲ・Ⅳ」(いずれも2回生以上)

古代以降ながい歴史をもつ中国文学の変遷を概説する講義です。文学史を色どる重要な作家や有名作品の紹介もまじえ、それら作家・作品がもつ文学史的な意義について説明がなされ、中国の文学の特色が一段と理解できるようになります。「中国文学史Ⅰ・Ⅱ」は六朝以前の文学変遷史、「中国文学史Ⅲ・Ⅳ」(2回生以上)は唐代以後の文学変遷史を講じますが、年度によってとりあげる時代が変わるので注意してください。

「中国哲学史Ⅰ・Ⅱ」(2回生以上)

主として孔子・孟子・荀子の儒家、老子・莊子・列子の道家、韓非子などの法家をはじめとする諸子百家の思想

の特色、また古代から近世におよぶ中国思想の変遷史を概説します。中国の思想は、文学と不即不離の関係にあり、直接影響するところも多いので、できるかぎり受講することを望みます。

「中国哲学特殊講義Ⅰ・Ⅱ」（2回生以上）

中国哲学上の特定の問題について探究された学問成果を解説する講義です。近年の中国哲学・思想では、古来の文献に頼る研究だけではなく、新出の出土資料を用いた研究が進められ、旧説に対する見直しが盛んに行われている領域があり、新しい知見も紹介されます。

「中国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ」（2回生以上）

中国古典文学には多岐な研究分野があり、研究対象となる時代も広範ですが、この講義は特定の研究分野に焦点を当て、これまでに、どのようなことがらが問題に取り上げられ、それが如何に研究され、現在のどのような研究状況にあるのか、そしてどのような課題があるのかなどについて解説が行われる講義です。古典文学だけでなく、漢字についての講義が行われることもあります。

「中国近現代文化特殊講義」（2回生以上）

中国の近代あるいは現代の文学について、例えば特定の作家研究や文学運動研究などを取り上げて解説することを主としますが、映画芸術や現代アートの分野にまで及ぶ「動き行く」中国を文化面からとらえる講義も行われます。

【テーマリサーチ型ゼミナール】

テーマリサーチ型ゼミナールは、2003年度からスタートした、文学部が擁する従来の枠組みでは捉えきれない人文学のあらたな分野やテーマ、アプローチを、ゼミ形式で大胆に実践していく、まったく新しい形態のゼミナールです。21世紀の「知」のグローバル化を目指して、人文学に共通する普遍的なテーマ、特定地域を多面的にリサーチしうるテーマ、現在進行形のタイムリーなテーマ、新世紀の社会に直結する実践、実習的テーマなど、現代社会が人文学に求める革新的テーマを設定します。また、テーマリサーチ型ゼミナールでは革新的・斬新なテーマを追求するためにも、常にゼミテーマを見つめ直しています。3回生のゼミ選択の際には、卒業時（4回生）にどのようなテーマで研究をし、卒業論文執筆をしたいかといったことを考え、ゼミを選択します。その際、自専攻のゼミ、テーマリサーチ型ゼミナールといった選択肢の中で自分に適するゼミを選んでください。テーマリサーチ型ゼミナールでどのようなテーマのゼミが開講されているのかはシラバスで確認をしてください。以下に2011年度、3回生ゼミのいくつかを記しますので是非参考にしてください。

2011年度3回生ゼミテーマ

例)「説き方の表現と教育心理学」、「中国映画から現代中国の文化を考える」、「THEMES IN ASIAN STUDIES」

5 中国文学研究入門について

①中国文学研究入門の目的と研究発表

1. 中国文学研究入門とは？

文学部では、新入生が基本的な研究法を身につけるために、専攻ごとに「研究入門」という授業が設置されています。中国文学専攻においては、これから中国文学を研究していくのに必要な基礎知識の習得を目指して、30人前後の小集団で進める「中国文学研究入門」という授業があります。

中国文学には、「詩」「散文」「小説」「詞」「戯曲」というように、多くのジャンルが含まれますが、中国文学研究入門では、「詩」を中心に学んでいきます。中国最初の歌謡である『詩経』に始まり、『三国志演義』でおなじみの曹操父子や隠逸詩人陶淵明が活躍する魏晋詩、李白や杜甫で有名な唐詩を経て、中国最後の王朝である清の詩に至るまで、中華民国以前の主要な詩人・作品を時代順に取り上げます。そして、その時代背景や詩人の作風、基本資料を学習し、現在までにどのような研究がなされたか、またどのような問題点があるかなど、より専門的なことも学んでゆきます。

2. 研究発表について

それでは「研究入門」はどのような形式で行われるのでしょうか。高校までは、先生が教壇に立って一方的に生徒に話すという形式の授業がほとんどだったと思います。しかし「研究入門」では、四、五人の班に分け、班ごとに担当を決めてレジュメを作成し、授業で発表するという形式をとります。班分けから研究発表にいたるまでの過程は次のようになります。

I、班分け

四、五人の班に分けます。一班「詩経」、二班「楚辞」というように、班ごとに担当するテーマを決めます。なお、各班が担当するテーマについては、TAの方から前もってお知らせします。

II、事前指導・役割分担

レジュメを作って発表するといっても、どのようなことを書いて発表すればよいのか、戸惑ってしまうことでしょう。そこで研究発表の三週間前に発表者を集めて、助手とTAが事前指導を行っています。事前指導では、担当のテーマについての概略やレジュメに盛り込んでほしい事項について解説します。それが終わると、班内で担当を決めてもらいます。担当事項は、大まかに言うところ「時代背景」「作者紹介」「作品紹介」「問題点・研究史・論著目録」の四つに分かれます。**事前指導は研究入門の平常点に含まれますので、必ず出席してください。**欠席者が出ると、役割分担もできないので、班のメンバーにも迷惑をかけてしまいます。やむを得ない事情でどうしても出席できない場合には、TAにその旨を伝えてください。無断で欠席した場合には、電話等で呼び出すこともあります。

III、レジュメ作成

事前指導・役割分担が終わると、二週間でレジュメを作成します。まずは事前指導で紹介した本を中心に、図書館・文献資料室・共同研究室等で資料を集めてください。そして集めた資料をもとに、レジュメを完成させてください（レジュメ作成に関する詳細は②レジュメ・資料の作り方を参照）。レジュメを作る際には特に以下の点に気をつけてください。

- 資料をそのまま写すのではなく、自分自身の文章で書くこと。
- レジュメの内容が重複しないように、班のメンバーとは連絡を密にすること。
- 本は借りるのではなく、できるだけコピーで済ますこと。

特に最初に挙げた点には注意してください。レジュメは収集した資料の中から、要点を見つけ出し、それを自分なりに要領よく、且つわかりやすくまとめていくべきものであって、集めた資料をただ写せばいいというわけではありません。自分なりの文章で書くように心がけてください。

研究入門で扱う文献資料を借りてしまうと、他のクラスで同じ所を担当している人、または担当が違っていてもその文献を必要とする人が、使用できなくなってしまいます。特に一冊しかない本は、皆が必要なときに閲覧できるように、お互いに協力しましょう。なお学部生が文献資料室と共同研究室の本を借りることはできません。

最後に、レジュメの作成についてわからないことがあったら、TAに聞いてください。

IV、原稿チェック

発表の約十日前に、TAが原稿をチェックします。それまでに下書きを完成させ、あとは清書するだけという段階にまで仕上げてください。原稿チェックでは、誤字の訂正、必要事項の漏れはないかということを中心に見ます。指摘された所を訂正したら、清書して原稿を完成させます。

V、印刷

原稿が完成したら、印刷をして製本します。原稿を印刷するには、文学部事務室（清心館1F）の前に置いてある「小集団クラス印刷申請書」が必要です。「小集団クラス印刷申請書」とは、印刷室の輪転機を使用するための許可証です。「小集団クラス印刷申請書」には指導教員記入欄があるので、予め指導教員からサインをもらっておいてください。指導教員のサインがないと印刷ができません。そして「小集団クラス印刷申請書」を持って事務室に行き、所定の手続きをして、清心館1F談話室横の印刷室の鍵をもらいます。その際鍵と引き換えに、事務室に学生証を預けなければなりません。印刷が終わったら、速やかに鍵を返却してください。

VI、配布・発表

完成したレジュメは、発表一週間前の研究入門の時間に配布してください。発表者はレジュメをもう一度チェックし、どのように発表するかを考えて、発表に備えましょう。発表の時間は一人あたり質疑応答も含めて十五分程度ですから、発表のときは書いた文章をそのまま読むのではなく、ポイントを絞って発表します。一方発表者以外の人も事前にレジュメを読んでおき、疑問点や意見が言えるようにしましょう。

以上研究発表にいたるまでの過程を簡単に述べつつ、レジюмеを作成する際の留意点についても触れました。「研究入門」は試験やレポートだけでなく、レジюмеの内容や授業態度、事前指導の出席も併せて評価の対象になります。授業に出席するのは当然として、主体的に参加するという心構えも必要です。

《補足：自主ゼミの持ち方》

自主ゼミとは、学生同士で作る「勉強会」のことです。中国文学専攻で行われている自主ゼミには漢文の訓読を中心とした読書会形式と、参加者が各自レジюмеを作成して発表するという研究会形式のものがあります。こういった学生の自主ゼミの活動に対して大学も援助をしており、自主ゼミの登録をすると、コピーカードと印刷用紙の援助を受けることができます。自主ゼミの登録申請は、前期と後期の二度募集しています。詳細は事務室に問い合わせてください。

②レジюме・資料の作り方

1. レジюмеとは

研究入門は担当者が調べたことや考えたことを発表し、討論するという形式で行われます。そのとき、調べたことや考えたことを書き記したものを「レジюме」といいます。「レジюме (resume)」とはそもそもフランス語で「摘要」「大意」を意味し、こんなことを調べ、こんな風に考えたといった「主体性」を加えなければなりません。

2. レジюмеの内容

中国文学研究入門では、以下の20のテーマについて、順次グループ発表の形式で授業を進めていきます。

- ①詩経 ②楚辞 ③古楽府と五言詩 ④魏晉詩 ⑤東晋宋・齊梁詩 ⑥近体詩と初唐詩 ⑦盛唐の山水詩と辺塞詩 ⑧李白 ⑨杜甫 ⑩韓愈とその周辺の詩人 ⑪白居易 ⑫晚唐詩 ⑬北宋前期の詩人 ⑭蘇軾 ⑮蘇門の詩人と王安石 ⑯南宋三大家 ⑰唐宋の詞 ⑱金元詩 ⑲明詩 ⑳清詩

そしてひとつのテーマに対して、主に「時代背景」「作者紹介」「作品介绍」「問題点・研究史・参考文献資料」の四つに分け、これを四、五人の班で分担してレジюмеを作成します。次にそれぞれの要点をまとめておきます。

I、時代背景

主としてテーマとなる人物が生きた時代の情勢について書きます。中国の文人はたいていの場合、詩人であると同時に政治家でもあり、その作風が歴史上の事実に影響されることも少なくありません。作品をより深く理解するために、詩が詠まれた時代の全体像を明らかにする必要があります。

(↓レジюме見本-1)

早發白帝城
朝辭白帝彩雲間
千里江陵一日還
兩岸猿聲啼不住
輕舟已過萬重山

(注)
江陵：現在の湖北省江陵县。朝：上。辭：告辞。千里江陵一日還：上。猿：同。啼：同。萬重山：同。白帝城：現在の四川省奉节县。輕舟：輕便的小船。已：已经。過：经过。萬重山：重山叠嶂。

(譯)
朝早く白帝城の彩雲の間から辞れ去れば、千里のかたがた江陵までわずか一日で還りつく。兩岸に啼く野猿の声がまた耳から消えぬままに、軽やかな小舟はいくえにも重なる山峯をすすんで通り過ぎていた。

乘月醉高臺
月に乗じて高臺に酔うべし

(注)
高臺：高台。醉：酔う。乘月：月夜に。高臺：高台。酔うべし：酔うべきである。

(訳)
思ひにまがめぬ心は幾十万、美酒はわずかに三百杯。心は多く酒は少ないけれど、酒さえ傾ければ、心ははやく来てない。だからこそ、酒の聖なる効用が知られ、酒がまわれば、心はおのずかしく開けられた。節義に殉じた伯夷、叔齊は、周の業を辞退して、首陽山に隠棲した。字問に励んだ顔回は、屠り空しく、貧困の中で常に飢えていた。生きていらる今の世で、飲酒を樂しまないとするれば、即ち我や字問など、そんな虚名は、何の役にも立つまない。カニのハサミの内こそは、不老不死の金液、酒樽の丘こそは、不老不死の蓬萊山。いとも、まず存分に美酒を飲め、美しい月の光の中、立派な高樓で酔うことにしよう。

(↓レジュメ見本-2)

<p>中には一字も残さず消え去るに文字を改めている詩もあつた。と、その詩稿と見た北宋と南宋の學者がそれぞれに記録している。</p> <p>③ 日常性</p> <p>友人との語りや独り言はとりとがたい。重い思想的な問題を話すこととは稀で、勿くは日常の些事であり身近の雑事である。例えば、時の政治を鋭く攻撃した諷刺の詩や、戦争に駆り立てられる大衆の反戦と歌う平和の詩や、重税にあえぐ生活苦から、薄命とかこつ婦人の身に泣く悲しみの歌や、栄利を捨てて悟りをついた低く普通の詩などがあ</p>	<p>この「白氏文集」(白居易の詩集)は、平安朝時代、男性の詩でなく、女流にも交託された。清少納言や紫式部は人知れずこれと読破暗誦して、時と処に応じて、これをよく駆使して、彼女たちの中国文学に対する教養の深さを示したように、清少納言の「枕草子」には「昔は文集、文選」とあり、彼女の第一の愛読書が白居易の「白氏文集」であったことが分かる。また、「雪のいと高うしは、白氏文集」に「香爐峯の會は簾を捲げて看る」とうたわれているのを踏まえて、菅原道真は最も白詩を愛読した人で、彼が大宰府に流された時に「門を出でず」と題して</p>
<p>② 日本文学に与えた影響</p> <p>中国の詩集で白詩ほど日本文学に影響を与えたものはない。遠唐使により、多くの詩文集が日本に伝えられた。その中でも白詩は、李白や杜甫の詩集よりも愛読された。</p>	<p>淺俗で卑しいという意味である。つまり元日に對して、軽・俗という批判を示している。</p> <p>白居易は白居易の「一部をたかき三浦いさす」(白居易の詩集)と題して、白居易の詩集を評している。</p> <p>白居易の詩集は、白居易の詩集を評している。</p>

II、作者紹介

作者の紹介をします。テーマが李白や杜甫であれば一人の伝記を書くこととなりますが、魏晉詩などがテーマの場合には複数の詩人の伝記を調べることになるので、要領よくまとめるように心がけましょう。

III、作品紹介

作品の紹介をします。先ず原文(白文)を書いて、その下に書き下し文を書きます。そしてわかりにくい語句に注釈を加えて、最後に口語訳を書いて完成です。ただ参考書を丸写しするのではなく、語句については自分で辞書を引いて調べることが必要です。

IV、問題点・研究史・論著目録

文学作品のなかには、研究者によって解釈が分かれる場合がよくあります。また研究対象によっては資料上の問題から、研究者によって説が異なることがあります。問題点や研究史では、そういった後世の研究者による見解の違いや古典文学研究の方法論などについてまとめます。時には研究者の論文を読んでそれを要約するということがあります。参考文献資料は、テーマに関わる本や論文を列挙していきます。

以上四つの分担について説明しましたが、いずれにしても参考図書をそのまま写すのではなく、内容を理解して自分の文章で書くことが大切です。また、最終的には分担したレジュメをひとつの冊子にするので、全体で統一性のあるものにできるように、班のメンバー同士で密に連絡をとるようにしてください。

3. レジュメの書式について

完成したレジュメは班ごとにまとめて、最終的にはB5の冊子にします。清書には生協等で販売しているB5のレイアウト用紙を使いましょう。最近ワープロ原稿も増加してきましたが、その場合も原稿はB5で統一してください。

4. 参考文献の書き方

レジュメを書く際に使用した参考文献を、レジュメの最後に書きます。参考文献には必ず編著者名、書名、出版社、シリーズ名、発行年を必ず記入してください。

《参考文献》

白川静『詩経国風』(平凡社・東洋文庫・一九九〇年)

《参考論文》

白川静「西周における殷人の活動－周南・召南とその背景－」

(『立命館文學』九六号・立命館大学人文学会・一九五三年)

③レポート・小論文の書き方

1. はじめに

大学の授業では、多くのレポートが課されます。また、文学部の学生は、四年間の大学生活の集大成として、卒業論文(原稿用紙30枚以上)を書くことになっています。更に、大学を卒業し社会に飛び立てば、ビジネスマンは業務報告書を、教師は指導報告書を、とその業種により、多種多様な文書を作成することになります。ですから大学在学中に、文章作成能力を身につける事は必要不可欠なのです。

この項では、レポートを作成するときの注意点や心構えについて簡単に説明します。

2. レポートを書く為の手順

ある授業で、教員から次の課題でレポートを書くように指示が出た、としましょう。

「レポート課題；李白の文学的特質について論じなさい」

このレポートを作成する為には、どのようなことをすべきでしょうか。最初から分からなくても結構です。でも、どのようにすべきか、以下に記しますので、よく読んでください。そして、この文章を読んだ後には、どうすべきかを答えられるようにしましょう。

A、資料の収集

まずレポートを作成する上で必要なこと、それは資料の収集です。資料がなければ、レポートを書くことはできません。できるだけ多くの資料を集めることを心がけましょう。

李白をはじめ、中国文学関係の資料は、別項「参考書」で挙げられている書物を読んだり、文献資料室や図書館を利用することで探せますし、探し方が分からなければ、教員・助手・TAに質問しましょう。

B、資料の検討とテーマの絞り込み

次にすべきことは、集めた資料を整理し、内容を検討することです。そのためには、書かれている内容を正確に読解することが必要です。「勝手読み」によって、自分の都合のいいように解釈するのは、最も避けるべきことです。

中国文学専攻で扱う文献は、漢文や現代中国語で書かれているものが必要になります。一回生から、漢文や現代中国語の授業がありますので、しっかりと勉強し、資料を読みこなすための力を蓄えていきましょう。勿論、現代の日本人研究者たちが書いた書物・論文にも目を通さなくてははいけません。ただ、そのときには一人だけでなく、同じ内容について別の研究者はどのように言っているかを、比較しましょう。研究者によって、見解が異なることがあるからです。

また、レポートで扱うテーマを絞り込むのも、大切な作業です。「李白の文学的特質を論じなさい」と言われても、様々な特質があり、その特質を全部論じようとすれば、本一冊分で収まるかどうか、といったところです。一本のレポートで、とても「李白の文学的特質」の全てを説き尽くすことはできません。ですから、こちら側でテーマを絞り込む必要があります。例えば、「酒を詠んだ詩」「友を詠んだ詩」のように、詩の内容に注目してテーマを絞り込む方法もあれば、「李白の楽府詩」「李白の絶句」のように、詩型に注目してテーマを絞り込む方法もあります。また、「李白と杜甫」のように、比較することで論じる方法も考えられます。**大切なのはテーマを一つに決め、それについてしっかりと論じることです。**あれもこれも論じようとすると、まとまりがなく、何を言いたいのか、よく分からないレポートになってしまいます。

今まで述べたAとBが、レポートを作成する際の作業の大部分を占めます。つまり、レポートを書くための下準備が、レポートの巧拙を決める、ということです。ですから、下準備を疎かにしないように肝に銘じてください。

C、執筆

A・Bの作業を通じて、いよいよレポートの執筆、ということになります。しかし、いきなり何も考えずに文章を書いても、優れたレポートは完成しません。建築士が家を建てる際、設計図を作成するのと同じように、レポートを書く際にも設計図(アウトライン)を作ります。どのように展開すれば、読者にもっとも明瞭に、論理的に伝達することができるのかを考え、文章全体の構成を考えます。それが、アウトラインの作成です。

テーマを「李白が詠んだ酒の詩」に絞り込みました。すると、「李白の酒を詠んだ作品の引用」、「後世の人たちの

作品評価」、「自分の評価」を記すこととなりますが、それらを文章全体のどこに配置すればよいのか、を考えなくてはなりません。レポートでは、文中で用いる材料が同じでも、順序が変われば、読者に対する印象度も説得力も大きく変わってきます。よくよく考えた上で、文章の構成を練りましょう。

文章全体の構成が決まったら、いよいよ執筆です。執筆する際に強調しておきたいのは、「借り物ではなく、自分の言葉で文章を書いてもらいたい」ということです。学生のレポートを読むと、様々な事柄を一生懸命調べるのはいいけれども、書物や論文を書いた学者の文章をそのまま引用しておきながら、その旨を明記せずに知らないふりをしている場合が実に多いのです。学者の意見を紹介するときは、要点を要領よくまとめることが大切です。やむを得ず、文章をそのまま引用する場合は、どこからどこまでが引用部分に該当するか、はっきりと分かるように記すべきです。要約紹介・引用いずれにしても、誰のなんという論著であるか、出版事項も含め明記する必要があります。

最初のうちは、下手でもかまいません。「どう書けば良いのか」と悩みながらも、自分の言葉で文章を書く、という訓練を積みましょう。

D、推敲

レポートも書き上げ後は提出するばかり、と言うとそうではありません。提出するのに先立ち、必ず推敲をするという習慣を身につけましょう。推敲するときには留意すべきところは下に挙げる通りです。

*誤字・脱字の確認

文学部に属しているわけですから、くれぐれも誤字・脱字のないように気をつけましょう。

*主述のねじれ・言葉の係り受け

もう一度、自分が書いた文章を読んでみましょう。主語と述語が一致しない場合や、同じ内容を繰り返してみたり（同語反復）、言葉の係り受けがおかしかったり、という場合があります。

また、推敲の時期や方法について、心がけておくといふことを次に記します。

*推敲は、文章を書き上げた直後に行うだけでなく、時間をおいて、例えば一晩明けてから後に行う

自分の書いた文章を客観的に評価するのは意外と難しく、ましてや書き上げた直後に客観的に評価するのは非常に難しいことです。推敲も同じことが言えます。

*パソコンやワープロを使って文章を作成した場合、画面を見ながらではなく、印刷した原稿を見ながら推敲した方がよい

画面を見るだけでは、なかなか誤字を発見できません。自分の原稿が印刷されると、どのようになるかをチェックする為にも、一度印刷して推敲しましょう。

3. おわりに

以上、レポートの書き方について、簡単に説明しました。より詳細にレポートや論文の書き方を知りたい人は、『論文の書き方』（澤田昭夫著、講談社学術文庫、1997）を手始めに、様々な論文の手引書を読んでみてはいかがでしょうか。

6 卒業論文について

①卒業論文の準備と作成

卒業論文は、4年間にわたる学習・研究の総決算であるだけに、全力を傾注して、その作成に取り組まなければなりません。そのためには、遅くとも3回生を終える前には研究テーマをほぼ決めておき、4回生演習の受講登録の時に迷わなくてもすむようにしておく必要があります。

卒業論文題目の事務室への提出期限は10月中旬（詳細は履修要項「卒業論文の提出について」の頁を参照）ですが、4月当初の授業時に担当教員にそのテーマを報告し、具体的な指導を受けられるようにしておくことが望ましいでしょう。

テーマが決まったら、まずそのテーマにかかわる先人の研究論文を概観し、必要な資料を収集します。次に作家の『文集』や主要作品、伝記資料などの基礎的文献の読解に努め、夏休みを終えるまでには、論点を整理し、論文の構想を練っておきます。

10月には、論文の章ごとの要旨をつくり、論旨の展開に必要な資料を整理します。

11月には、執筆を始め、下書きを完成させ、12月には清書にとりかかります。

提出締切り日時は履修要項で確認してください。完成原稿は2部コピーを作り、原本とコピー1部の計2部を提出し、残りの1部は手元に保存し1月下旬から2月中旬に行われる口頭試問に備えてください。卒業論文の提出については、いかなる理由があろうとも遅延は一切認められません。早めの提出を心掛けましょう。

卒業論文提出までの手続きについては履修要項の『卒業論文』の提出についてを参照してください。

②中国文学専攻卒業論文の体裁

【原稿用紙に手書きする場合】

用紙：B4判「立命館大学論文用紙」（二つ折り）

縦書・横書の指定：原則として縦書

枚数：原則として本文が30枚以上50枚以下

その他の注意：黒または青のペンを使用すること

【ワープロ・パソコンを使う場合】

用紙：A4判白紙

縦書・横書の指定：原則として縦書

文字数：1行あたりの文字数および1頁あたりの行数は指定なし

枚数：本文が400字詰原稿用紙に換算して30枚以上50枚以下であることがわかるように明記する。

【表紙等に関する体裁】

用紙：硬版（黒色） 表と裏に硬版を使い綴じ紐で綴じること。

大きさ：B5判（手書き原稿の場合） A4判（ワープロ・パソコン原稿の場合）

綴じ辺：B4判原稿用紙の場合は長辺綴じ（右辺袋綴じ）

A4判用紙の場合は短辺綴じ（右辺綴じ）

題目シール：所定のもの貼り付けること

③論文執筆に当たっての諸注意

1. 本文は原則として縦書きとする。ただし、横文字を多く使う語学関係の論文など、その内容によっては横書きでも良いが、その場合は担当教員と相談すること。
2. 表紙は必ず専攻所定の黒硬版B5判のものを用い、原稿用紙は必ず本学指定のもの（立命館論文用紙）を用いること。ワープロ・パソコンを使用する場合も、用紙の大きさを本学指定のものに合わせ、表紙は専攻所定の黒硬版A4判のものを用いること。
3. 本文の枚数は400字詰原稿用紙で30枚以上、50枚以内を厳守すること。目次や注は枚数に算入しない。ワープロ・パソコン使用の場合は、1枚の字数を400字にする必要はないが、全体の分量が400字詰原稿用紙で30～50枚になっていることが分かるようにする。
4. 必ず目次を付け、章・節の題名とそのページ数を記入すること。
5. 本文には必ずページ数を記入すること（原稿用紙を半分にした場合は両側に付ける）。
6. 本文は常体（「である」「であった」）を用い、敬体（「です」「ます」）を避けること。ただし、引用文に関してはこのかぎりではない。
7. 旧漢字と常用漢字、現代仮名遣いと歴史仮名遣いを混用しないこと。ただし、引用文や資料に関してはこの限りではない。
8. 短い引用文は「」をつけて、本文中に入れる。長い場合は、行を改め、2字下げで書く。
9. 漢文資料を引用する場合は、必ず句読・訓点（返り点・送り仮名）を付けるか、または書き下し文にする。後者の場合は、原文を注記すること。中国語の場合は、口語訳を付ける。原文は注にまわしてもよい。
10. 資料の引用に当たっては“孫引き”（原典に直接あたらず、他の文献に引かれているものから借用すること）を

してはならない。どうしても原典を見ることが出来ない場合は、その旨を明記すること。

11. 地図や年表・図表などは、必要に応じて付けること。
12. 注は、本文の該当箇所に番号をつけ、本論の最後にまとめる。番号は、章ごとに区切らず、通し番号にすること。
13. 論文作成に当たって利用した文献は、最後にまとめて列挙する。単行本は、著者・書名・発行所・発行年を、また雑誌掲載の論文などは、著者・題目・雑誌名・巻号・発行年月を記入すること。

テーマリサーチ型ゼミナールにおける卒業論文（卒論形式・非卒論形式）の提出について

テーマリサーチ型ゼミナールでは、従来のような卒業論文の提出（卒論形式）もありますが、クラスによっては、卒論形式に代えて、共同で制作物（成果物）を仕上げ提出する「非卒論形式」もあります。必ずクラス内で担当教員に、いずれかの形式なのかを確認してから作成してください。

◆体裁について

卒論形式で制作の場合	文書体裁	字数：12,000字以上20,000字以下 英文の場合：65ストローク×25行、A4用紙15枚以上30枚以下 ファイル形式・書式・用紙の大きさなど：クラス担当者の指示に従うこと。 必ず 2部 提出すること。添付資料がある場合は、添付資料も同様に必ず 2部 提出すること。
	表紙等に関する体裁	題目、学生証番号、専攻、プログラム、氏名を必ず記載すること。
	その他の注意	学生本人のみの執筆による単著であること。共同執筆の類はこれに該当しない。
非卒論形式で制作の場合	文書・表紙体裁	体裁についてはクラス担当者の指示に従うこと。 必ず 2部 提出すること。添付資料がある場合は、添付資料も同様に必ず 2部 提出すること。
	その他の注意	1. 制作物（成果物）には題目、学生証番号、専攻・プログラム、氏名を必ず記載するか添付すること。また、審査教員シールを貼付すること（貼付箇所は自由）。 2. 制作物（成果物）とともに、4,000字以上の個人レポートを提出すること。 ※制作物（成果物）と個人レポートの両方を提出して初めて「卒論提出」となる。 ※個人レポートの表紙裏にも審査教員シールを貼付すること。 3. 口頭試問に相当するものとして、「卒業制作発表会（仮称）」を実施することがある。実施日については、担当教員の指示に従うこと。

◆上記の他の提出に関する諸注意は基本的に履修要項の「『卒業論文』の提出について」に従ってください。

7 共同研究室と人文系文献資料室（文献資料室）の利用について

①中国文学専攻共同研究室の利用

中国文学専攻共同研究室には多くの文献や貴重図書があり、助手が管理していますが、現在は研究や発表の準備をする場所として提供され、中国文学専攻の学生なら誰でも利用できることになっています。また、様々な回生の人や院生と交流できる場所でもあります。しかし、あくまで研究室であり、談話室とは異なりますので、その点に留意してマナーを守って使用しましょう。

1. 場所

清心館3階の南側にあります。ドアは東側のものを使用してください。西側のドアは使用できません。

2. 使用時間と鍵

使用できる時間は、原則として9:00～21:30です（21:30以降は、深夜延長届が必要です）。使用する場合は、事務室の窓口に申請し、鍵と自分の学生証を交換して借ります。借りた鍵は、共同研究室のドアの横にある鍵掛けにかけておきます。**研究室内には貴重図書もありますので、研究室が無人になる時は必ず施錠してください。**返却する場合も同様に、事務室の窓口に申請し、鍵と学生証を交換してください。事務室が昼休みなどで閉まっている時間帯は、開くまで待ち、絶対に鍵を持ち帰ることのないようにしましょう。

原則として、鍵を借りた人が共同研究室を出る時は、他の人と学生証を交換してその旨を事務室の窓口に申請し、学生証を交換・返却してもらうことになっています。しかし、もし研究室を閉めて鍵を返却する時に借りた本人が既に帰ってしまった場合には、そのまま窓口に鍵を返却してください。夜遅くなって事務室の開室時間を過ぎてしまった場合には、17:00～21:30は敬学館事務室、それ以降は至徳館の東側にあるキャンパスインフォメーションに鍵を持っていきます。本人が借りた鍵であれば、すぐに学生証を返却してもらえますが、他人が借りた鍵である場合は、学生証は事務室で預ることになります。その場合は、翌日以降事務室で返却されますので、学生証の持ち主は必ず受け取りに行ってください。

3. 書籍について

共同研究室には多くの本があります。中には高木正一先生や歴代の諸先生・先輩が寄贈されたものがあり、中国文学専攻にとってだけでなく大学の貴重な財産ですので、大切に扱きましょう。

線装本（糸で綴じた古い本で、これも高木先生の寄贈本です）は特別な場合を除き、使用できません。**その他の本や辞書は、研究室内では自由に使うことができますが、すべて貸出禁止です。**もし必要な場合は、TAに声をかけてから、1階にあるコピー機などでコピーしてください。

4. パソコンについて

A、注意事項

共同研究室内には東側に1台、西側（奥）に2台パソコンが設置されています。インターネットに繋がれるのは奥の左側のパソコンで、四部叢刊・RUNNERS・電子文献などの検索専用に使っています。ログインするにはパスワードが必要ですので、普段は使用できません。このパソコンが**使用可能な時間は助手・TAの勤務時間内のみで、申請が必要です。**検索以外の目的（レジュメ作成など）で使いたい場合には、研究室東側のパソコンを使用してください。

パソコン内には個人的なファイルをハードディスクに残さないでください（残っている場合には、了承無しに削除することがあります）。なお、プリンタは現在使用できません。

B、電源の切り方

東側のパソコン：「電源を切る用意ができました」と表示されたら本体とモニタの電源を切ります。

西側左側のパソコン：使用後は「シャットダウンする」を選択して、「電源を切っても安全です」というダイアログが表示されたら、本体とモニタの電源を切ります。

西側右側のパソコン：「電源を切る用意ができました」と表示されたら、しばらくして自動的に本体の電源が切

れます。その後でモニタの電源を切ってください。

西側のパソコンは、最後にプリンタの後ろにある元電源（オレンジ色のスイッチ）を切ってください。

C、使用できるソフト

【Netscape】

インターネットを見るためのソフトです。起動すると、立命館大学の「図書館・情報センター」のページが表示されるようになっているので、そこから各種検索画面などを開いてください。また、「ブックマーク」のところに「立命中文公式頁」（中国文学専攻のホームページ）が登録されています。その中に学術リンク集、語学関係のサイトのリンク集があります。

《注意！》図書館などにある学校内の他のパソコンと違って、パスワードなど個人情報を入力すると外部から参照される恐れがあり、また履歴にすべて残ってしまいます。悪用防止のため、Webメールなどは使わないでください。

【電子版四部叢刊】

「四部叢刊」に収められている書について、全文検索、書名検索などが出来るソフトです。

使用法はT Aに訊いて下さい。

5. その他注意事項

- ・研究室内は禁煙です。また、飲食も控えることになっています。
 - ・研究室内での携帯電話の使用は禁止しています。使用する場合には廊下へ出てください。
 - ・あくまで研究室であり、また近隣の教室では授業が行われています。室内および廊下での大声の談笑、騒音は慎んでください。
 - ・研究室奥には中国藝文研究会の事務局が置かれ、その関係の出版物・備品が保管されています。また、高木先生寄贈書の配架場所となっています。照明・空調のスイッチを使う時と事前指導などを除いて、普段は入らないようにしてください。
 - ・盗難防止のため、荷物を置いたまま研究室を離れることのないようにしましょう。
- その他、後片付けなど、マナーを守って皆が気持ちよく使えるよう心がけましょう。

②人文系文献資料室（文献資料室）について

人文系文献資料室（文献資料室）は修学館地下1階にあり、清心館の向かい側（西側）に入口があります。利用可能時間は、月曜日～金曜日は9:00～20:00、土曜日は10:00～17:00で、日祝および毎月15日は書庫整理のため閉室しています。なお土曜日は通常の入口ではなく中央北側の入口でカードリーダーに学生証を通して入ります。正確な日程や休暇期間の開室時間については文献資料室で配布されている予定表を参照してください。

1. 入室の手続き

階段を下りて正面が受付です。入ったら用紙に回生・専攻などの必要事項を記入します。受付には予定表や資料室内の書架の位置などの資料が置いてありますので、必要なものを貰うことができます。本やカバンの持ち込みは可能ですが、貴重品の管理は各自が充分に行ってください。その他係員の指示があればそれに従ってください。

2. 本を探す

ランナーズ（図書館の図書検索システム）で本の番号を調べます。分類番号のあとの「所在」に「文・文献〇〇」とあるものは文献資料室にあります。番号がわかったら、書架で該当番号を探します。中国文学関係の本はA書庫の奥（向かって右側）にあります。

ここがない場合、閉架（C書庫）にある可能性があります。その場合は指定用紙に書籍番号などを記入し受付で依頼すれば、持ってきて貰えます。必要な箇所を閲覧あるいはコピーしたら、受付に返却します。

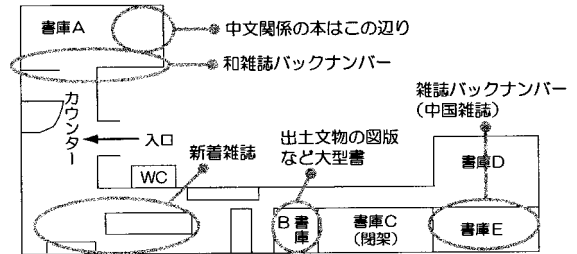
大抵の本はランナーズに登録されていますが、登録されていなくても『立命館大学漢籍分類目録』に記載されている場合があります。その場合、あるいはランナーズで検索した時に「和装」と記されている場合、『立命館大学漢籍分類目録』で漢籍番号を調べなおして指定用紙に記入し、受付に渡してください。

3. 雑誌の探し方

中国学関係の論文は『中国文学研究文献要覧』や『東洋学文献類目』などを使って探します。雑誌名と掲載年・号が分かったら、ランナーズで所在を確認の上、E書庫へ行き、書架の横の雑誌名一覧を参照して該当雑誌を探します。立命館大学にその雑誌がない場合は、他の大学などで探すことになります。

4. 注意事項

- ・文献資料室では学生が借りられない書籍、雑誌があります。雑誌については必要な箇所を資料室内でコピーしてください。なお、資料室での私物のコピーは禁止されています。
- ・資料室内での喫煙・飲食は禁止されています。
- ・携帯電話・PHSの電源は切ってください。
- ・資料室の棚は可動式になっています。一箇所を開けていると、他の棚が閉まり使用できません。他の人の迷惑にならないよう、一つの棚を長時間開けていることのないようにしましょう。



③ 図書館について

ここでは、図書館の中国文学専攻でよく使う書籍の場所などを説明します。本の検索の仕方など詳しくは「LIBRARY GUIDE」を参照してください。

中国文学専攻の本は、大部分は3階の「文学」の棚にあります。それ以外に、以下の場所にも関連図書が多くあります。

[1階]

レファレンスカウンター：入り口から正面つきあたりにあります。書庫にある本の貸出申請、資料の所蔵調査などを依頼できます。また、他大学が所蔵している場合、閲覧のための紹介状を発行してもらうことも可能です。資料や複写の取り寄せも依頼できます。

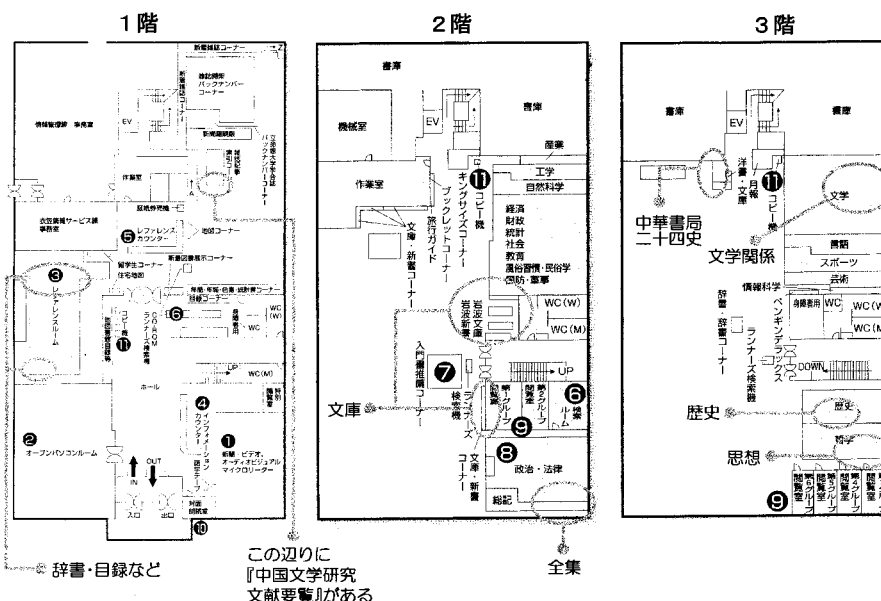
辞書類：レファレンスカウンターから左手（南側）にあります。辞書類はだいたい貸出禁止となっています。必要箇所のみコピーしてください。

[2階]

明治書院『新釈漢文大系』など全集や文庫本はこの階にあります。

[3階]

全集の一部（集英社『全釈漢文大系』など）、文学・哲学・歴史の本はこの階にあります。



8 その他

①専攻ホームページについて

中国文学専攻では、ホームページを開設しています。講義概要、教員・院生紹介などのページのほか、語学や留学に関するページ、中国文学に関する学術・検索サイトへのリンク集などがあります。また、本学の名誉教授である白川静先生の著作集などを紹介するページ、学生・教員・院生および卒業生で構成する中国藝文研究会の活動を報告するページもあります。随時更新されているので参照してください。

アドレス <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/cl/index-j.htm>

②TAについて

TA (Teaching Assistant) は、共同研究室の管理、研究入門の事前指導や原稿チェックなどをします。

TAは博士前期課程(マスター)以上に属する大学院生で、主に研究入門について学生の学術面のサポートをします。

TAの在室時間帯については、共同研究室前の掲示板に貼り出す勤務表を参照してください。その時間に共同研究室に来られない場合にはその旨を別に掲示します。

学術面で分からないこと(資料の検索の仕方、本の使い方など)があったら、気軽に声をかけてください。

9 中国文学を学ぶための参考書(主として日本語で書かれた図書)

【概説・総記】

- 支那文学概説(青木正児全集1) 青木正児 春秋社 1969
- 支那文学思想史(青木正児全集1) 青木正児 春秋社 1969
- 中国の古代文学(一)(二) 白川静 中公文庫 1976(白川静著作集)
- 文学概論(中国文化叢書4) 高木正一ほか 大修館書店 1967
- 文学史(中国文化叢書5) 高木正一ほか 大修館書店 1968
- 中国文学概論 中国芸文研究会 2000
- 中国文学概論 塩谷温 講談社学術文庫 1983
- 中国文学史 前野直彬 東京大学出版会 1975
- 中国文学史 吉川幸次郎・黒川洋一 岩波書店 1974
- 中国文学を学ぶ人のために 興膳宏 世界思想社 1991
- 中国名詩選(岩波文庫) 松枝茂夫 岩波書店 1984
- 支那文学史-上古より六朝まで 狩野直喜 みすず書房 1970
- 中国文学史資料選 前野直彬・今西凱夫編 東京大学出版会 1989
- 中国文学史 内田泉之助 明治書院 1956
- 中国文学講話 倉石武四郎 岩波新書 1968
- 中国文学入門 吉川幸次郎 講談社学術文庫 1976
- 教養のための中国古典文学史 松原朗ほか 研文出版 2009
- 支那詩論史 鈴木虎雄 弘文堂 1927
- 中国詩史(上)(下) 吉川幸次郎 筑摩叢書 1967
- 中国の散文(中国詩文選) 吉川幸次郎・小川環樹 筑摩書房 1984
- 中国哲学史 狩野直喜 岩波書店 1953
- 中国思想史 小島祐馬 創文社 1968
- 中国思想史(上)(下) 日原利国編 ぺりかん社 1987
- 中国哲学を学ぶ人のために 本田濟編 世界思想社 1975

中国思想を学ぶ人のために 森三樹三郎編 世界思想社 1985
 中国の哲学・宗教・芸術 福永光司 人文書院 1988
 中国哲学史研究－唯心主義と唯物主義の抗争史 重沢俊郎 法律文化社 1964
 支那学文叢 狩野直喜 みすず書房 1973
 読書纂余 狩野直喜 みすず書房 1980
 支那文学研究 鈴木虎雄 弘文堂書房 1925
 中国文学思想管見 橋本循 朋友書店 1982
 中国文学論集 吉川幸次郎編 新潮社 1966
 風と雲－中国文学論集 小川環樹 朝日新聞社 1972
 中国文学論集（高橋和巳作品集9） 河出書房新社 1972
 中国文学論考（目加田誠著作集） 瀧溪書舎 1985
 中国詩文論叢 清水茂 創文社 1989
 語りの文学 清水茂 筑摩書房 1988
 秋風鬼雨－詩に呪われた詩人たち 荒井健 筑摩書房 1982
 中国的レトリックの伝統 井波律子 影書房 1987（講談社学術文庫 1996）
 中国文人論 村上哲見 汲古書院 1994
 中華文人の生活 荒井健編 平凡社 1994
 中国文学における孤独感 斯波六郎 岩波書店 1958（岩波文庫 1990）
 春草考－中国古典詩文論叢 前野直彬 秋山書店 1994
 中国文学に現れた自然と自然観 小尾郊一 1962
 中国の文学論 伊藤虎丸・横山伊勢雄編 汲古書院 1987
 中国文学の女性像 石川忠久編 汲古書院 1982
 中国の神話と物語り 小南一郎 岩波書店 1984
 西王母と七夕伝承 小南一郎 平凡社 1991
 芸術論集（中国文明選） 福永光司 朝日新聞社 1971
 文学論集（中国文明選） 荒井健・興膳宏 朝日新聞社 1972
 近世散文集（中国文明選） 本田濟・都留春雄 朝日新聞社 1971
 近世散文選（鑑賞中国の古典） 本田濟 角川書店 1988
 中国詩歌原論－比較詩学の主題に即して 松浦友久 大修館書店 1986
 中国離別詩の成立 松原朗 研文出版 2003
 中国の文学理論 興膳宏 筑摩書房 1988
 異域の眼－中国文化散策 興膳宏 筑摩書房 1995
 中国古典と現代（研文選書） 興膳宏 研文出版 2008
 中国中世文学評論史 林田慎之助 創文社 1979
 中国の自伝文学（中国学芸叢書） 川合康三 創文社 1996
 中国古代説話の思想史的考察 小野沢精一 汲古書院 1982
 中国人の美意識－詩・ことば・演劇 岩城秀夫 創文社 1992
 中国の社会思想 小島祐馬 筑摩書房 1967
 古代中国研究 小島祐馬 筑摩書房 1968
 中国思想論集 西順蔵 筑摩書房 1969
 東洋思想研究 本田濟 創文社 1987
 経書の成立 平岡武夫 全国書房 1946
 経書の伝統 平岡武夫 岩波書店 1951
 古代中国人の美意識 笠原伸二 笠原博士頌寿記念会 1978
 中国人の自然観と美意識 笠原伸二 創文社 1982
 古代中国人の意識と観念 笠原伸二 笠原博士頌寿記念会 1985
 中国近代思想研究 安田二郎 筑摩書房 1976
 中国における近代思惟の挫折 島田虔次 筑摩書房 1970

- 道教（東洋文庫） アンリ・マスペロ著／川勝義雄訳 平凡社 1978
 道教思想史研究 福永光司 岩波書店 1987
 気の中国文化 三浦国雄 創元社 1994
 中国古代書籍史－竹帛に書す 錢存訓著／宇津木章ほか訳 法政大学出版局 1980
 中国目録学 清水茂著 筑摩書房 1991
 漢詩——美の在りか 松浦友久 岩波新書 2001
 中国名文選 興膳宏 岩波新書 2008

【語法・語学】

- 中国語歴史文法 太田辰夫 江南書院 1958
 中国語学研究 小川環樹 創文社 1977
 中国音韻史の研究 尾崎雄二郎 創文社 1980
 中国中世語法史研究 志村良治 三冬社 1984
 中国語史通考 太田辰夫 白帝社 1988
 中国語史研究－中国語学とインド学との接点 水谷真成 三省堂 1994
 中国古典を読むために－中国語学史講義 頼惟勤 大修館書店 1996
 漢文研究法 狩野直喜 みすず書房 1979
 漢文入門 小川環樹・西田太一郎 岩波全書 1957
 漢文の語法 西田太一郎 角川書店 1980
 新版漢文解釈辞典 多久弘一・瀬戸口武夫 国書刊行会 1998

【事典】

- 中国学芸大事典 近藤春雄 大修館書店 1978
 アジア歴史事典 平凡社 1962
 漢詩の事典 松浦友久ほか 大修館書店 1999

【辞書・辞典】

- 大漢和辞典 諸橋轍次 大修館書店 修訂版 1984-86
 字通 白川静 平凡社 1996
 新字源 小川環樹ほか 角川書店 改訂版 1994
 漢語大詞典 漢語大詞典編輯委員会 上海辞書出版社 1986
 王力古漢語字典 王力主編 中華書局 2000

【訳注書（シリーズ名）】

- 漢文大系 増補版・普及版 富山房
 漢詩大系 青木正児ほか 集英社（漢詩選は改訂版）
 中国詩人選集（二集・新修） 吉川幸次郎・小川環樹 岩波書店
 全訳漢文大系 宇野精一・平岡武夫 集英社
 新訳漢文大系 明治書院
 中国の古典 学習研究社
 中国の名詩鑑賞 内田泉之助監修 明治書院
 中国詩文選 筑摩書房
 中国名詩鑑賞（小沢クラシックス「世界の詩」） 小沢書店
 中国古典選 朝日新聞社
 鑑賞中国の古典 小川環樹・本田濟 角川書店
 中国古典文学大系 平凡社
 漢籍国字解全書 早稲田大学出版部
 国訳漢文大成（正・続） 国民文庫刊行会

【著作集】

- 吉川幸次郎全集 吉川幸次郎 筑摩書房 1986
青木正児全集 青木正児 春秋社 1984
目加田誠著作集 瀧溪書舎 1985
白川静著作集 白川静 平凡社 1999-2000
松浦友久著作選 松浦友久 2003~2005
武内義雄全集 武内義雄 角川書店 1977-79
金谷治中国思想論集 金谷治 平河出版社 1997

【論著目録】

- 中国文学研究文献要覧（戦後編1945-1977） 石川梅次郎ほか 日外アソシエーツ 1979
中国文学研究文献要覧（古典文学1978-2007） 川合康三監修 日外アソシエーツ 2008
東洋学文献類目 京都大学人文科学研究所 逐年刊行
文学・哲学・史学文献目録Ⅲ（東洋文学・語学篇） 日本学術会議 1954,58
日本中国学会報（学界展望） 逐年刊行

【漢籍目録】

- 立命館大学漢籍分類目録 立命館大学文学部編 1987
立命館大学所蔵高木正一旧蔵漢籍古書分類目録 中国芸文研究会 2000
詞学文庫分類目録 芳村弘道ほか編 1996
改訂内閣文庫漢籍分類目録 内閣文庫 1971
京都大学人文科学研究所漢籍目録 京都大学人文科学研究所
和刻本漢籍分類目録 長沢規矩也編 汲古書院 1976
中国叢書綜録 上海図書館編 中華書局 1959-62

【先秦】

- 中国古代神話 森三樹三郎 清水弘文堂書房 1969
中国の神話 白川静 中央公論社 1975 白川静著作集
中国の祭祀と文学 中鉢雅量 創文社 1989
中国古代の文化 白川静 講談社 1979 白川静著作集
中国古代の民俗 白川静 講談社 1980 白川静著作集
『山海経』の基礎的研究（笠間叢書） 松田稔 笠間書院 1995
『山海経』の比較的研究（笠間叢書） 松田稔 笠間書院 2006
増補巫系文学論 藤野岩友 大学書房 1969
戦国時代出土文物の研究 林巴奈夫編 京都大学人文科学研究所 1985
春秋戦國秦漢時代出土文字資料の研究 江村治樹 汲古書院 2000

思想

- 易（新訂中国古典選） 本田濟 朝日新聞社 1966
易経（鑑賞中国の古典） 三浦国雄 角川書店 1988
易経（上）（下） 高田真治・後藤基巳訳 岩波文庫 1969
書経・春秋（中国詩文選） 清水茂 筑摩書房 1975
春秋左氏伝（鑑賞中国の古典） 安本博 角川書店 1989
春秋左氏伝（上）（中）（下） 小倉芳彦訳 岩波文庫 1988
諸子百家の文芸観 張小康著／釜谷武志訳 汲古書院 1985
諸子百家（中国詩文選） 今鷹真 筑摩書房 1975
管子の研究 金谷治 岩波書店 1987
孔子伝 白川静 中央公論社 1991 白川静著作集
論語（上）（下）（新訂中国古典選） 吉川幸次郎 朝日新聞社 1965

- 論語 金谷治 岩波文庫 1963
 論語(鑑賞中国の古典) 加地伸行ほか 角川書店 1987
 論語・孟子研究 狩野直喜 みすず書房 1977
 孟子(新訂中国古典選) 金谷治 朝日新聞社 1966
 孟子・墨子(鑑賞中国の古典) 鳥森哲男・浅野裕一 角川書店 1989
 墨子 浅野裕一 講談社学術文庫 1998
 新訂 孫子 金谷治 岩波文庫 2000
 荀子・韓非子(鑑賞中国の古典) 片倉望・西川靖二 角川書店 1988
 荀子 内山俊彦 講談社学術文庫 1999
 老子(新訂中国古典選) 福永光司 朝日新聞社 1968
 老子・莊子(鑑賞中国の古典) 野村茂夫 角川書店 1988
 老子・莊子 森三樹三郎 講談社学術文庫 1994
 莊子 内・外・雜篇(新訂中国古典選) 福永光司 朝日新聞社 1966-67

詩 經

- 詩經国風(東洋文庫) 白川静 平凡社 1990
 詩經雅頌(東洋文庫) 白川静 平凡社 1998
 詩經-中国の古代歌謡 白川静 中公新書 1970(白川静著作集9 2000)
 詩經研究通論篇 白川静 朋友書店 1981(白川静著作集10 2000)
 詩經国風 橋本循 筑摩書房 1969
 詩經国風(中国詩人選集1-2) 吉川幸次郎 岩波書店 1958
 詩經 目加田誠 講談社学術文庫 1991
 新釈詩經 目加田誠 岩波新書 1954
 毛詩・尚書(漢文大系第12卷) 星野亘 富山房 1975
 詩經(漢詩大系1-2) 高田真治 集英社 1966(漢詩選1-2 1996)
 詩經(新釈漢文大系110-112) 石川忠久 明治書院 1997
 詩經(中国の古典18-19) 加納喜光 学習研究社 1982
 詩經(中国の名詩鑑賞1) 乾一夫 明治書院 1975
 詩經(中国詩文選2) 中島みどり 筑摩書房 1983
 詩經・楚辭(鑑賞中国の古典11) 牧角悦子・福島吉彦 角川書店 1989
 中国古典詩集-詩經国風・楚辭(世界文学大系1・2) 橋本循・青木正児 筑摩書房 1967

楚 辭

- 楚辭叢説 白川静 「立命館大学」120-121号 1955(白川静著作集8 平凡社 2000)
 屈原の立場 白川静 「立命館大学」109-110号 1954(白川静著作集8 平凡社 2000)
 楚辭(国訳漢文大成1) 国民文庫刊行会 1921
 楚辭 星川清孝 明德出版社 1970
 楚辭(新釈漢文大系34) 星川清孝 明治書院 1970
 楚辭の研究 星川清孝 養徳社 1961
 楚辭(漢詩大系3) 藤野岩友 集英社 1967(漢詩選3 1996)
 楚辭(中国詩文選6) 小南一郎 筑摩書房 1973
 楚辭(中国古典文学全集) 目加田誠 平凡社 1962
 楚辭(東洋思想叢書9) 橋川時雄 日本評論社 1943
 楚辭研究 竹治貞夫 風間書房 1978
 憂国の詩人屈原(中国の詩人1) 竹治貞夫 集英社 1983
 新訳楚辭 青木正児 春秋社 1957(青木正児全集4 春秋社 1973)
 訳注楚辭 橋本循 岩波文庫 1957
 楚辭・近思録(漢文大系22) 岡田正之・井上哲次郎 富山房 1978
 楚辭(中国の古典20) 黒須重彦 学習研究社 1982
 中国の悲歌の誕生-屈原とその時代 F・テーケイ著/羽仁協子訳 風濤社 1972

楚辭新研究 石川三佐男 汲古書院 2002
楚辭とその注釈者たち 小南一郎 朋友書店 2003

【前漢・後漢】

思想

漢代研究文献目録 早苗良雄編 朋友書店 1979
秦漢思想史研究 金谷治 平楽寺書店 1981
周漢思想研究 重沢俊郎 弘文堂書房 1943
兩漢學術考 狩野直喜 筑摩書房 1964
漢代における礼学の研究 藤川正数 風間書房 1985
中国の科学思想－兩漢天学考（中国学芸叢書） 川原秀城 創文社 1996
『淮南子』と諸子百家思想 向井哲夫 朋友書店 2002
淮南子の思想－老莊的世界 金谷治 講談社 1992
塩鉄論－漢代の經濟論争（東洋文庫） 佐藤武俊訳注 平凡社 1970
論衡－漢代の異端的思想（東洋文庫） 大滝一雄訳 平凡社 1965
司馬遷 パートン・ワトソン著／今鷹真訳 筑摩叢書 1965
史記 春秋戦国・楚漢・漢武篇（新訂中国古典選） 田中謙二・一海知義 朝日新聞社 1966,67
史記（鑑賞中国の古典） 福島正 角川書店 1989
漢書（中国詩文選） 福島吉彦 筑摩書房 1976
漢書 1-8 小竹武夫訳 筑摩書房 1998

古楽府

古楽府（中国の名詩鑑賞2） 堀内公平 明治書院 1976
古楽府・散曲（中国詩文選22） 田中謙二 筑摩書房 1983
古楽府 岡村貞雄・小尾郊一 東海大学出版社 1980
楽府の歴史的研究（東洋学叢書） 増田清秀 創文社 1975
古楽府の起源と継承 岡村貞雄 白帝社 2000
「上林楽府の所在地について」 松本幸男 学林19号（魏晋詩壇の研究 朋友書店 1995）
「五言詩發生の時期に対する疑問」 鈴木虎雄 史林1919・4月号
「班固の詠史詩について」 吉川幸次郎 神田博士還暦記念書誌学論集 1957
（吉川幸次郎全集6 筑摩書房 1968）
「班固歌詩をめぐる問題」 松本幸男 学林創刊号（魏晋詩壇の研究 朋友書店 1995）

【魏晋六朝】

思想

魏晋學術考 狩野直喜 筑摩書房 1968
六朝道教思想の研究（東洋学叢書） 神塚淑子 創文社 1999
六朝道教儀禮の研究 山田利明 東方書店 1999
中国思想の流れ 上 兩漢・六朝 橋本高勝編 晃洋書房 1996
六朝仏教思想の研究 小林正美 創文社 1993
六朝道教史研究（東洋学叢書） 小林正美 創文社 1990
道教典籍目録・索引－六朝唐宋の古文獻所引 大淵忍爾・石井昌子編 国書刊行会 1988
六朝精神史研究 吉川忠夫 同朋舎出版 1984
六朝士大夫の精神 森三樹三郎 同朋舎出版 1986
顔氏家訓（中国古典新書） 宇野精一 明德出版社 1982

詩・文

新文選学 清水凱夫 研文出版 1999
文選（新釈漢文大系14-15,79-83,93） 内田泉之助ほか 明治書院 1963
文選（全釈漢文大系26-32） 花房英樹・小尾郊一 集英社 1974

- 文選（鑑賞中国の古典12） 興膳宏・川合康三 角川書店 1988
 文選（中国の古典23-24） 高橋忠彦 学習研究社 1985
 玉台新詠 鈴木虎雄 岩波文庫 1953
 玉台新詠（中国の古典25） 石川忠久 学習研究社 1986
 玉台新詠（新釈漢文大系60-61） 内田泉之助 明治書院 1974
 文心雕龍（新釈漢文大系） 戸田浩暁 明治書院 1978
 鐘嶸詩品 高木正一 東海大学出版会 1978
 抱朴子・列仙伝（鑑賞中国の古典） 尾崎正治ほか 角川書店 1988
 中国人の機智－〈世説新語〉を中心として 井波律子 中公新書 1983
 世説新語（鑑賞中国の古典） 井波律子 角川書店 1988
 西晋文学研究－陸機を中心として 佐藤利行 白帝社 1995
 六朝文学論文集 清水凱夫 重慶出版社 1989
 中国文章論 六朝麗指 古田敬一・福井佳夫 汲古書院 1990
 漢魏詩の研究 鈴木修次 大修館書店 1967
 魏晉詩壇の研究 松本幸男 朋友書店 1995
 建安詩人とその伝統（東洋学叢書） 伊藤正文 創文社 2002
 西晋文学論－玄学の影と形似の曙 佐竹保子 汲古書店 2002
 六朝唐詩論考（東洋学叢書） 高木正一 創文社 1999
 六朝詩人伝 興膳宏 大修館書店 2000
 六朝詩人群像 興膳宏 大修館書店 2001
 六朝文学への思索（東洋学叢書） 斯波六郎 創文社 2004
 古詩源（上）（下）（漢詩大系） 内田泉之助・星川清孝 集英社 1964,65
 古詩選（新訂中国古典選） 入谷仙介 朝日新聞社 1966
 曹植（中国詩人選集3） 伊藤正文 岩波書店 1958
 曹操－矛を横たえて詩を賦す 川合康三 ちくま文庫 2009
 曹操－三国志の奸雄 竹田晃 講談社学術文庫 1996
 阮籍の生涯と詠懐詩 松本幸男 木耳社 1977
 阮籍の詠懐詩について 吉川幸次郎 岩波文庫 1981
 阮籍と嵇康の文学（東洋学叢書） 大上正美 創文社 2000
 潘岳・陸機（中国詩文選10） 興膳宏 筑摩書房 1973
 謝靈運（中国の詩人3） 船津富彦 集英社 1983
 謝靈運－孤独の山水詩人 小尾郊一 汲古書院 1983
 謝靈運伝論 小尾郊一 小尾郊一退官記念事業会 1976
 庾信－望郷詩人（中国の詩人4） 興膳宏 集英社 1983
 庾信研究 矢嶋美都子 明治書院 2000
 庾信と六朝文学（東洋学叢書） 安藤信宏 創文社 2008
 中国古小説選 六朝志怪・唐代伝奇 本間洋一編 和泉書院 1991

陶淵明

- 陶淵明（中国詩人選集4） 一海知義 岩波書店 1958（新修1 1984）
 陶淵明・文心雕龍（世界古典文学全集25） 一海知義・興膳宏 筑摩書房 1968
 陶淵明－隱逸詩人（中国の詩人2） 松枝茂夫・和田武司 集英社 1983
 陶淵明（中国名詩鑑賞1） 星川清孝 小沢書店 1996
 陶淵明（中国詩文選11） 都留春雄 筑摩書房 1974
 陶淵明全集 松枝茂夫・和田武司 岩波文庫 1990
 陶淵明伝 吉川幸次郎 中公文庫 1989
 陶淵明とその時代 石川忠久 研文出版 1994
 隱逸と文学 今場正美 中国芸文研究会 2003

【 唐 】

思想

- 五経正義の研究－その成立と展開 野間文史 研文出版 1998
唐代の思想と文化（東洋学叢書） 西脇常記 創文社 2000
中国思想の流れ 中 隋唐・宋元 橋本高勝編 晃洋書房 1996
隋唐道教思想史研究 砂山稔 平河出版社 1990
史通外篇 西脇常記編訳注 東海大学出版会 2002

文学（総記）

- 唐代の詩と散文 吉川幸次郎 弘文堂 1943
唐才子伝之研究 布目潮颯・中村喬 汲古書院 1982
唐代文学の研究 山田勝久 笠間選書 1984
唐宋文学論考 笈文生 創文社 2002
四庫全書総目提要唐詩集の研究 近藤光男 研文出版 1984
唐代文学と仏教の研究 平野顕照 朋友書店 1978
妓女と中国文人 斎藤茂 東方書店 2000
唐宋八家文（上）（下）（新訂中国古典選） 清水茂 朝日新聞社 1966
唐宋八家文（鑑賞中国の古典） 笈文生 角川書店 1989

唐詩総論

- 唐詩 村上哲見 講談社学術文庫 1998
唐詩概説（中国詩人選集別巻） 小川環樹 岩波文庫 2005
唐代の詩人－その伝記 小川環樹 大修館書店 1975
唐詩選（朝日選書中国古典選25-28） 高木正一 朝日新聞社 1996
唐詩選（新釈漢文大系19） 目加田誠 明治書院 1964
唐詩選 石川忠久 東方書店 1989
唐詩選（中国の古典27-29） 中島敏夫 学習研究社 1982-86
唐詩（現代教養文庫） 松浦友久 社会思想社 1972
唐詩三百首（東洋文庫） 目加田誠 平凡社 1973-75
唐詩選 前野直彬 岩波文庫 1961
唐詩選（ちくま学芸文庫） 今鷹真ほか 筑摩書房 1994
唐詩選（漢詩大系6-7） 齋藤响 集英社 1964
唐代詩人論 鈴木修次 講談社学術文庫 1979
三体詩（中国古典選29-32） 村上哲見 朝日文庫 1978
唐代詩集（中国古典大系17-18） 田中克己 平凡社 1969
唐代詩史（目加田誠著作集6） 目加田誠 龍溪書舎 1981
全唐詩雜記 小川昭一 彙文堂書店 1969
唐代の詩人達 前野直彬 東京堂出版 1971
唐詩－その伝達の間 鈴木修次 NHKブックス 1976
詩語の諸相－唐詩ノート（増訂版） 松浦友久 研文出版 1995
唐詩の世界 入谷仙介 筑摩書房 1990
唐詩の風景 植木久行 講談社学術文庫 1999
唐詩歳時記 植木久行 講談社学術文庫 1995
唐詩物語（あじあブックス） 植木久行 大修館書店 2002
唐代の詩人と文献研究 芳村弘道 中国芸文研究会 2007
詩轍 三浦梅園 中文出版社 1977
唐詩鑑賞辞典 前野直彬 東京堂 1970
校注唐詩解釈辞典 松浦友久 大修館書店 1987
続校注唐詩解釈辞典 松浦友久 大修館書店 2001

初唐・盛唐詩

- 初唐の文学思想と韻律論 古川未喜 知泉書館 2003
 初唐文学論 高木重俊 研文出版 2005
 初唐（中国の名詩鑑賞4） 田森襄 明治書院 1975
 王維の生涯と芸術 小林太市郎 全国書房 1944
 王維（中国詩人選集6） 都留春雄 岩波書店 1958
 王維（中国詩文選13） 入谷仙介 筑摩書房 1973
 王維詩集 小川環樹ほか 岩波文庫 1972
 王維研究（東洋学叢書） 入谷仙介 創文社 1976
 王維－審美詩人（中国の詩人5） 伊藤正文 集英社 1983
 孟浩然詩の研究 宋天鎬著／豊福健二訳 1994
 岑参の辺塞詩 森野繁夫・新免恵子 溪水社 1988

李 白

- 李白（中国詩人選集7-8） 武部利男 岩波書店 1957（新修2 1983）
 李白（漢詩大系8） 青木正児 集英社 1965（漢詩選8 1996）
 李白（中国詩文選14） 武部利男 筑摩書房 1973
 李白－飄逸詩人（中国の詩人6） 小尾郊一 集英社 1982
 李白全詩集（続国訳漢文大成） 久保天随 日本図書センター 1978
 李太白詩歌全解 大野実之助 早稲田大学出版部 1980
 天遊の詩人李白（中国の名詩4） 田中克己 平凡社 1982
 李白（鑑賞中国の古典16） 寛久美子 角川書店 1988
 李白（中国名詩鑑賞3） 前野直彬 小沢書店 1996
 李白詩選 松浦友久 岩波文庫 1997
 李白研究－抒情の構造 松浦友久 三省堂 1976
 李白の夢 武部利男 筑摩書房 1982
 李白－詩と心象（現代教養文庫） 松浦友久 社会思想社 1970
 李白伝記論－客寓の詩想 松浦友久 研文出版 1994
 李白と杜甫 高島俊男 講談社学術文庫 1997
 李白と杜甫 郭沫若著／須田禎一訳 講談社 1972

杜 甫

- 杜詩 1～8 鈴木虎雄 岩波文庫 1963-66
 杜甫（漢詩大系9） 目加田誠 集英社 1965（漢詩選9 1996）
 杜甫（中国詩人選集9-10） 黒川洋一 岩波書店 1957（新修2 1983）
 杜甫（鑑賞中国の古典17） 黒川洋一 角川書店 1987
 杜甫（中国詩文選15） 黒川洋一 筑摩書房 1973
 杜甫詩選 黒川洋一 岩波文庫 1991
 杜甫の詩と生涯（目加田誠著作集7） 目加田誠 龍溪書舎 1984
 杜甫－沈鬱詩人（中国の詩人7） 森野繁夫 集英社 1982
 杜甫（中国名詩鑑賞4） 目加田誠 小沢書店 1996
 杜甫（中国古典入門叢書） 劉開揚著／橋本堯訳 日中出版 1984
 漂泊の詩人杜甫（中国の名詩5） 小野忍 平凡社 1983
 杜甫全詩集（続国訳漢文大成） 鈴木虎雄 日本図書センター 1978
 杜甫詩注 吉川幸次郎 筑摩書房 1977
 杜甫ノート 吉川幸次郎 新潮社 1970
 杜甫 高木正一 中公新書 1969
 杜甫の研究（東洋学叢書） 黒川洋一 創文社 1977
 杜甫研究 安東俊六 風間書房 1996
 杜甫私記 吉川幸次郎 筑摩叢書 1980

杜甫論集 吉川幸次郎 筑摩叢書 1980

杜甫伝 田中克己 講談社 1975

杜甫とともに 黒川洋一 創文社 1982

中唐（詩・文）

中唐文人考 太田次男 研文出版 1993

中唐文学の視角 松本肇・川合康三 創文社 1998

終南山の変容－中唐文学論集 川合康三 研文出版 1999

寒山（中国詩人選集） 入矢義高 岩波書店 1958

寒山詩 入谷仙介・松村昂 筑摩書房 1970

韓愈（中国詩人選集11） 清水茂 岩波書店 1958

韓退之－豪放詩人（中国の詩人8） 前野直彬 集英社 1983

韓愈（漢詩大系） 原田憲雄 集英社 1964

韓退之全詩集（統国訳漢文大成） 久保天随 日本図書センター 1978

韓愈の生涯 前野直彬 秋山書店 1976

韓愈（世界古典文学全集） 清水茂 筑摩書房 1986

韓愈・柳宗元（中国詩文選16） 笈文生 筑摩書房 1973

韓愈と柳宗元－唐代古文研究序説 小野四平 汲古書院 1995

柳宗元－枯淡詩人（中国の詩人9） 林田慎之助 集英社 1983

柳文研究序説 新海一 汲古書院 1987

李賀（中国詩人選集14） 荒井健 岩波書店 1959（李賀・李商隠 新修5 1984）

李賀（漢詩大系13） 齋藤响 集英社 1967

李賀詩集（中国の詩集6） 比留間一成 角川書店 1972

李賀詩選 黒川洋一 岩波文庫 1993

李賀論考（朋友学術叢書） 原田憲雄 朋友書店 1980

李賀歌詩編（東洋文庫） 原田憲雄 平凡社 1998

李長吉歌詩集 鈴木虎雄 岩波文庫 1987

元稹研究 花房英樹 彙文堂書店 1977

白居易

白居易研究講座 太田次男ほか 勉誠社 1993-98

白居易研究年報 白居易研究会 勉誠出版 2000～

白居易（中国詩人選集12-13） 高木正一 岩波書店（新修4 1983）

白楽天－諷諭詩人（中国の詩人10） 太田次男 集英社 1983

白居易（中国詩文選17） 平岡武夫 筑摩書房 1977

白楽天（鑑賞中国の古典） 西村富美子 角川書店 1988

白居易研究 花房英樹 世界思想社 1971

白氏文集（新釈漢文大系） 岡村繁 明治書院 1988～

白楽天（漢詩大系） 田中克己 集英社 1964（白居易 漢詩選10 1996）

白楽天 花房英樹 清水書院 1990

白楽天とその詩 近藤春雄 武蔵野書院 1994

白居易「諷諭詩」の研究 静永健 勉誠出版 2000～

白居易－生涯と歳時記（朋友叢書） 平岡武夫 朋友書店 1998

白氏文集を読む 下定雅弘 勉誠社 1996

白楽天の愉悦 下定雅弘 勉誠出版 2006

白楽天全詩集（国訳漢文大成） 佐久節 日本図書センター 1978

白氏文集の批判的研究 花房英樹 朋友書店 1974

旧鈔本を中心とする白氏文集本文の研究（上）（中）（下） 太田次男 勉誠社 1997

晚唐詩

- 晚唐（中国の名詩鑑賞7） 小川昭一 明治書院 1976
 杜牧（漢詩大系14） 市野澤寅雄 集英社 1965
 杜牧（中国詩人選7） 市野澤寅雄 集英社 1967
 杜牧（中国詩文選18） 荒井健 筑摩書房 1974
 杜牧（中国名詩鑑賞6） 市野澤寅雄 小沢書店 1996
 杜牧詩選 松浦友久 植木久行 岩波文庫 2004
 杜牧詩索引 改訂版 山内春夫 彙文堂書店 1986
 杜牧の研究 山内春夫 彙文堂書店 1985
 李商隱（中国詩人選集15） 高橋和巳 岩波書店 1958（李賀・李商隱 新修5 1984）
 詩人の運命－李商隱詩論 高橋和巳作品集別巻 河出書房新社 1972
 晚唐詩人考－李商隱・温庭筠・杜牧の比較と考察 桐島薫子 中国書店 1998
 李商隱研究 詹滿江 汲古書院 2005
 魚玄機・薛濤（漢詩大系15） 辛島驍 集英社 1964

伝奇小説

- 隋唐小説研究 内山知也 木耳社 1977
 唐代小説の研究 近藤春雄 笠間書院 1978
 中国の伝奇と美女－志怪・伝奇の世界 近藤春雄 武蔵野書院 1991
 唐宋伝奇集（上）（下） 今村与志雄 岩波文庫 1988
 唐代伝奇集（東洋文庫） 前野直彬編訳 平凡社 1963-64
 唐代伝奇（新釈漢文大系44） 内田泉之助・乾一夫 明治書院 1972

【 宋 】

思想

- 宋明哲学の本質 岡田武彦著 木耳社 1984
 宋明哲学序説 岡田武彦著 文言社 1977
 宋代の知識人－思想・制度・地域社会 宋代史研究会編 汲古書院 1993
 東京夢華録－宋代の都市と生活（東洋文庫） 孟元老著／入矢義高・梅原郁訳注 平凡社 1996
 中国近世における礼の言説 小島毅 東京大学出版会 1996
 朱子（中国文明選） 吉川幸次郎・三浦国雄 朝日新聞社 1976
 朱子学大系 1～14 明德出版社 1974-1983
 大学・中唐（新訂中国古典選） 島田慶次 朝日新聞社 1967
 近思録（上）（下）（中国文明選） 湯浅幸孫 朝日新聞社 1972,74
 朱子学的思惟－中国思想史における伝統と革新 有田和夫・大島晃編 汲古書院 1990
 朱子学と陽明学 島田慶次著 岩波書店 1967
 資治通鑑選（中国古典文学大系14） 頼惟勤ほか編訳 平凡社 1978
 資治通鑑（中国古典新書） 竹内照夫 明德出版社 1971

詩・文

- 宋詩概説（中国詩人選集二集1） 吉川幸次郎 岩波書店 1962
 宋詩選（中国古典選33-34） 入谷仙介 朝日新聞社 1979
 宋詩選（筑摩叢書74） 小川環樹 筑摩書房 1967
 宋詩選（漢詩大系16） 今関天彭ほか 集英社 1966
 宋詩 附金（中国の名詩鑑賞8） 佐藤保 明治書院 1978
 宋代詩詞（鑑賞中国の古典22） 山本和義ほか 角川書店 1988
 宋詩選注1～4 宋代詩文研究会 平凡社東洋文庫 2004～5
 宋明の思想詩 松川健二 北海道大学図書刊行会 1982
 宋詩鑑賞辞典 前野直彬編 東京堂出版 1977
 欧陽脩－その生涯と宗族 小林義廣 創文社 2000

歐陽脩古文研究 東英寿 汲古書院 2003
梅堯臣（中国詩人選集二集3） 笈文生 岩波書店 1962
王安石（中国詩人選集二集4） 清水茂 岩波書店 1962
王安石（中国人物叢書2） 小野寺郁夫 人物往来社 1967
王安石 佐伯富 中央公論社 1990
王安石－濁流に立つ（中国の人と思想） 三浦国雄 集英社 1985
王安石事典 東一夫 国書刊行会 1980
黄庭堅（中国詩人選集二集7） 荒井健 岩波書店 1963
黄山谷（漢詩大系17） 倉田淳之助 集英社 1967（黄庭堅 漢詩選12 1997）
黄庭堅 全二冊 中田勇次郎 二玄社 1994
滄浪詩話（中国古典新書） 市野澤寅雄 明德出版社 1976

蘇軾

蘇東坡詩集 小川環樹 筑摩書房 1983
蘇軾（上）（下）（中国詩人選集二集5-6） 小川環樹 岩波書店 1962（新修6 1983）
蘇東坡詩選 小川環樹・山本和義 岩波文庫 1975
蘇軾詩注 1～4 小川環樹・山本和義 筑摩書房 1963-90
蘇東坡集（中国文明選） 小川環樹・山本和義 朝日新聞社 1972
蘇軾（中国詩文選19） 山本和義 筑摩書房 1973
蘇東坡（漢詩大系） 近藤光男 集英社 1964
蘇東坡－天才詩人（中国の詩人11） 横田輝俊 集英社 1983
蘇軾・陸游（鑑賞中国の古典21） 村上哲見・浅見洋二 角川書店 1989
詩人と造物－蘇軾詩論考－ 山本和義 研文出版 2002
蘇東坡全詩集（続国訳漢文大成） 岩垂憲徳ほか 日本図書センター 1978

陸游

陸游（中国詩人選集二集8） 一海知義 岩波書店 1962（陸游・高啓 新修7 1984）
陸游（中国詩文選20） 小川環樹 筑摩書房 1974
陸游－円熟詩人（中国の詩人12） 村上哲見 集英社 1983
陸放翁詩解 鈴木虎雄 弘文堂 1951
陸放翁鑑賞（河上肇全集） 一海知義校注 岩波書店 1982
陸游研究書誌(1)(2) 野原康宏 未名10・12号 1992,94
入蜀記（東洋文庫） 岩城秀夫訳 平凡社 1986

唐宋詞

宋詞の世界（あじあブックス） 村上哲見 大修館書店 2001
宋代の詞 中田勇次郎 弘文堂書房 1940
歴代名詞選（漢詩大系24） 中田勇次郎 集英社 1965（漢詩選15 1997）
中国名詞選（新釈漢文大系84） 馬嶋春樹 明治書院 1975
宋詞評釈 波多野太郎 桜楓社 1975
宋代詞集（中国古典文学大系20） 倉石武四郎ほか 平凡社 1970
宋代詩集（中国の古典33） 佐藤保 学習研究社 1986
唐宋詩集（筑摩世界文学大系8） 小川環樹ほか 筑摩書房 1975
李煜（中国詩人選集16） 村上哲見 岩波書店 1959
読詞叢考（東洋学叢書） 中田勇次郎 創文社 1998
宋詞研究－唐五代北宋篇（東洋学叢書） 村上哲見 創文社 1976
唐宋詞研究 青山宏 汲古書院 1991
中国古典詩歌の手法と言語 宇野直人 研文出版 1991
宋詞研究－南宋篇（東洋学叢書） 村上哲見 創文社 2006
詞論の成立と発展－張炎を中心として 松尾肇子 東方書店 2008
宋詞と言葉 中原健二 汲古書院 2009

詞学の用語 宋詞研究会 汲古書院 2010

【金・元】

- 大モンゴルの時代（世界の歴史9） 杉山正明・北川誠一 中央公論社
 元明詩概説（中国詩人選集二集2） 吉川幸次郎 岩波書店 1963
 宋元明清詩集（中国古典文学大系19） 前野直彬 平凡社 1973
 元・明詩（中国の名詩鑑賞9） 福本雅一 明治書院 1976
 元好問（中国詩人選集二集2） 小栗英一 岩波書店 1963
 元好問（漢詩大系20） 鈴木修次 集英社 1965
 近代詩集（中国文明選9） 入谷仙介ほか 朝日新聞社 1971
 耶律楚材文集（中国古典新書統編） 松崎光久 明德出版社 2001
 定本湛然居士文集訳 飯田利行 国書刊行会 1996
 「明七子の先声－楊維禎の文学観について」 前野直彬 春草考第11章 秋山書店
 「楊維禎論」 要木純一 島根大学法文学部紀要（文学科） 17-1 1992
 「薩天錫の詩」 桑山龍平 中国語雑誌6 1951

元 曲

- 戯曲集（上）（中国古典文学大系52） 田中謙二ほか訳 平凡社 1970
 元曲五種（東洋文庫） 池田大伍訳・田中謙二補注 平凡社 1975
 元人雜劇序説 青木正児 弘文堂 1937
 元雜劇研究 吉川幸次郎 岩波書店 1948
 元曲金錢記 吉川幸次郎 筑摩書房 1943
 元曲酷寒亭 吉川幸次郎 筑摩書房 1948

【 明 】

思 想

- 明代思想研究－明代における儒教と仏教の交流（東洋学叢書） 荒木見悟 創文社 1978
 明代思想史 容肇祖著／松川健二等訳 北海道中国哲学会 1965
 陽明学大系 1～13 荒木見悟ほか編 明德出版社 1971-74
 王陽明集（中国文明選） 島田虔次 朝日新聞社 1975
 伝習録（鑑賞中国の古典） 吉田公平 角川書店 1988
 明夷待訪録－中国近代思想の萌芽（東洋文庫） 西田太一郎訳 平凡社 1964

詩・文

- 高啓（中国詩人選集二集10） 入谷仙介 岩波書店 1962（陸游・高啓 新修7 1984）
 高青邱（漢詩大系21） 蒲池歆一 集英社 1966
 高青邱（東洋思想叢書） 土岐善麿 日本評論社 1942
 袁宏道（中国詩人選集二集11） 入矢義高 岩波書店 1963
 明代詩文（中国詩文選23） 入矢義高 筑摩書房 1978
 明・清の三詩説 松下忠 明治書院 1978

小説・戯曲（研究書）

- 中国小説史の研究 小川環樹 岩波書店 1968
 中国小説研究 内田道夫 評論社 1977
 中国の八大小説－中国近世小説の世界 大阪市立大学中国文学研究室編 平凡社 1965
 中国近世における短篇白話小説の研究 小野四平 評論社 1978
 中国小説史研究－水滸伝を中心として 中鉢雅量 汲古書院 1996
 中国小説選（鑑賞中国の古典） 金文京 角川書店 1989
 中国戯曲演劇研究 岩城秀夫 創文社 1973
 中国古典劇の研究 岩城秀夫 創文社 1986
 日用類書による明清小説の研究 小川陽一 研文出版 1995

水滸伝の世界 高島俊男 大修館書店 1987
水滸伝と日本人－江戸から昭和まで 高島俊男 大修館書店 1991
西遊記の研究 太田辰夫 研文出版 1984
西遊記の秘密 中野美代子 福武書店 1984
西遊記形成史の研究 磯部彰 創文社 1993
西遊記 トリックワールド探訪 中野美代子 岩波新書 2000
孫悟空はサルかな？ 中野美代子 日本文芸社 1992
三国志演義 井波律子 岩波新書 1994
三国志演義の世界 金文京 東方書店 2010増訂
花開索伝の研究 井上泰山ほか 汲古書院 1989
三言二拍本事論考集成 小川陽一 新典社 1981
中国のグロテスクリアリズム 井波律子 平凡社 1992
董解元西廂記諸宮調研究 金文京ほか 汲古書院 1998
明清の戯曲 田仲一成 創文社 2000
宋明清小説叢考 澤田瑞穂 研文出版 1982

【 清 】

思想

清朝史通論 内藤湖南 平凡社 1993
清朝考証学の研究 近藤光男 研文出版 1987
清代考拠学思想史的研究 濱口富士雄 国書刊行会 1994
清朝考証学とその時代（中国学芸叢書） 木下鉄矢 創文社 1996
清代政治思想史研究 大谷敏夫 汲古書院 1991
清代学術概論－中国のルネッサンス 梁啓超著／小野和子訳注 平凡社 1974
清代禁書の研究 岡本さえ 東京大学出版会 1996
章学誠の知識論－考証学批判を中心として（東洋学叢書） 山口久和 創文社 1998
顧炎武集（中国文明選） 清水茂 朝日新聞社 1974
国朝漢学師承記（上）（中）（下） 近藤光男訳注 明治書院 2001

詩・文

清朝の制度と文学 狩野直喜 みすず書房 1984
清代文学評論史（青木正児全集1） 青木正児 春秋社 1969
清詩選（漢詩大系22） 近藤光男 集英社 1967（漢詩選14 1997）
宋明清三朝の詩壇と詩派とについて 菅谷軍次郎 宮城学院女子大学研究論文集11 1957
王士禎（中国詩人選集二集13） 高橋和巳 岩波書店 1962
王漁洋（漢詩大系23） 橋本循 集英社 1965
呉偉業（中国詩人選集） 福本雅一 岩波書店 1962
袁枚伝 アーサー・ウェイリー著／松本幸男訳 彙文堂 1992
袁枚の性霊説の特色 松下忠 東方学35 1968
龔自珍（中国詩人選集） 田中謙二 岩波書店 1962
黄遵憲（中国詩人選集） 島田久美子 岩波書店 1963
日本雑事詩（東洋文庫） 実藤恵秀・豊田穰 平凡社 1968年
清末民初を中心とした中国近代詩の研究 倉田貞美 大修館書店 1969
聊斎志異（上）（下）（中国古典文学大系） 増田渉ほか訳 平凡社 1978
清末小説閑談 樽本照雄 法律文化社 1983
清末小説論集 樽本照雄 法律文化社 1992
清末小説叢考 樽本照雄 汲古書院 2003
新編清末民初小説目録 樽本照雄 清末小説研究会 1997
晩清小説研叢 中島利郎 汲古書院 1997

【現代】

- 中国現代文学事典 丸山昇他編 東京堂出版 1985
 中国現代文学研究ガイド 中国文芸研究会編 1985
 原典で読む図説中国20世紀文学－解説と資料 中国文芸研究会編 白帝社 1995
 中国現代文学史－革命と文学運動 菊地三郎 青木書店 1953
 中国新文学運動史（正）（続） 尾坂徳司 法政大学出版局 1957,65
 現代の中国文学 小野忍 毎日新聞社 1958
 中国近代文学史（上）（下） 実藤遠 淡路書房新社 1960
 中国文学史研究－〈文学革命〉と前夜の人々 増田渉 岩波書店 1967
 中国の現代文学 小野忍 東京大学出版会UP選書 1972
 現代の中国文学 相浦杲 NHKブックス 1972
 現代中国の文学 竹内実 研究社叢書 1972
 中国現代文学史 吉田富夫 朋友書店 1996
 新中国の芸術家たち フェドレンコ著／木村浩訳 朝日新聞社 1960
 近代中国の思想と文学 東京大学中文研究室編 大安 1967
 近代文学における中国と日本 伊藤虎丸ほか編 汲古書院 1986
 中国文学雑考 小野忍 大安 1967
 現代中国文学の理論と思想 丸山昇 日中出版 1974
 〈文革〉の軌跡と中国研究 丸山昇 新日本出版社 1981
 中国文学論考 相浦杲 未来社 1990
 求索－中国文学語学 相浦杲 未来社 1993
 声無き処に驚雷を聴く－〈文化大革命〉後の中国文学 高島俊男 日中出版 1981
 文学の自立を求めて－今日の中国文学を読む 高島俊男 日中出版 1983
 中国文学最新情報 竹内実・萩野脩二編 サイマル出版会 1987
 十五年戦争と文学－日中近代文学の比較研究 山田敬三・呂元明編 飯塚書店 1964
 変革期の詩人たち－現代中国詩人論 秋吉久紀夫 東方書店 1991
 よみがえる台湾文学－日本統治期の作家と作品 下村作次郎ほか編 東方書店 1995
 北京苦住庵記－日中戦争時代の周作人 木山英雄 筑摩書房 1978
 郁達夫－その青春と詩 稲葉昭二 東方書店 1982
 スマトラの郁達夫 鈴木正夫 東方書店 1995
 沈從文－人と作品 小島久代 汲古書院 1997

魯迅

- 章炳麟・章士釗・魯迅－辛亥の死と生と 高田淳 龍溪書舎 1974
 魯迅 竹内好 日本評論社 1944
 新編魯迅雑記 竹内好 勁草書房 1976
 続魯迅雑記 竹内好 勁草書房 1978
 魯迅の印象 増田渉 講談社 1948
 魯迅その文学と革命 丸山昇 平凡社 1965
 魯迅と革命文学 丸山昇 紀伊國屋新書 1972
 魯迅と伝統 今村与志雄 勁草書房 1967
 魯迅と一九三〇年代 今村与志雄 研文出版 1982
 魯迅ノート 今村与志雄 筑摩書房 1987
 魯迅と現代 佐々木基一・竹内実編 勁草書房 1968
 魯迅詩話 高田淳 中公新書 1971
 魯迅遠景 竹内実 田畑書店 1978
 魯迅周辺 竹内実 田畑書店 1981
 魯迅と終末論－近代リアリズムの成立 伊藤虎丸 龍溪書舎 1975
 魯迅と日本人－アジアの近代と“個人”の思想 伊藤虎丸 朝日新聞社 1983

魯迅の世界 山田敬三 大修館書店 1977
魯迅私論 尾上兼英 汲古書院 1988
魯迅－花のため腐草となる（中国の人と思想） 丸尾常喜 集英社 1985
魯迅－〈人〉〈鬼〉の葛藤 丸尾常喜 岩波書店 1993
魯迅「野草」の研究 丸尾常喜 汲古書院 1997
魯迅のなかの古典 林田慎之助 創文社 1981
ロシアの影－夏目漱石と魯迅 藤井省三 平凡社 1985
仙台における魯迅の記録 仙台における魯迅の記録を調べる会編 平凡社 1978
魯迅「故郷」の読書史 藤井省三 創文社 1997
魯迅の紹興 裘士雄等著／木山英雄訳 岩波書店 1990
魯迅の思い出 内山完造 社会思想社 1979
魯迅と内山完造 小泉譲 講談社 1979
魯迅事典 藤井省三 三省堂 2002

【雑 誌】

アジア遊学 勉誠出版
日本中国学会報 日本中国学会
中唐文学会報 中唐文学会
橄欖 早稲田大学宋代詩文研究会
東方学 東方学会
学林 中国芸文研究会
中国文学報 京都大学文学部中国語学中国文学研究室

10 中国文学関連Webサイト

【研究機関】

京都大学 人文科学研究所 <http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/index.html>
同上 付属漢字情報研究センター <http://www.kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>
(ここから東方学文献類目・全国漢籍データベースに入れる)
大東文化大学 中国文学科 黄寅洞 <http://www.daito.ac.jp/~oukodou/>
大東文化大学 文学部 中国文学科 <http://www.daito.ac.jp/~y-wata/chn-lit/>
茨城大学 二階堂研究室 <http://nika01.hum.ibaraki.ac.jp/~nikaido/>
立命館大学 萩原研究室 <http://www.ritsumeit.ac.jp/~hagiwara/>
金沢大学 文学部 中国語学中国文学研究室 <http://web.kanazawa-u.ac.jp/~chinese/chubun.html>
関西大学 文学部 中国語中国文学科 <http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~moriset/>
九州大学 文学部 中国文学研究室 <http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/~shizuka/zw/>
東北大学 文学部 中国文学研究室 <http://www.sal.tahoku.ac.jp/zhongwen/>
日本大学 文理学部 中国文学科 http://www.chs.nihon-u.ac.jp/ch_dpt/
広島大学 中国語学中国文学研究室 <http://home.hiroshima-u.ac.jp/cbn/>
仏教大学 中国文学科 <http://www.bukkyo-u.ac.jp/org/chubun/index.html>
早稲田大学 文学部 中国文学専修 <http://www.littera.waseda.ac.jp/major/chubun/gakubu/>
大阪大学 中国哲学研究室 <http://www.let.osaka-u.ac.jp/chutetsu/index.html>
東洋大学 中国哲学文学科 <http://bunbun.toyo.ac.jp/chutetsu/index.htm>
新潟大学 中国思想史研究室 <http://hyena.hle.niigata-u.ac.jp/indexj.html>

【個人】

過立齋 <http://www.karitsu.org/>
電腦瓦崗塞 <http://wagang.econ.hc.keio.ac.jp/>

睡人亭 <http://www.ritsumei.ac.jp/kic/~tyv07679/index-j.html>

雨粟荘 <http://village.infoweb.or.jp/~fxba0016/index.html>

中国と遊ぼう <http://www.geocities.jp/jialaid/>

【リンク集】

中国情報局 <http://searchchina.ne.jp/>

中国網頁搜尋器 <http://www.ne.jp/asahi/sinology/lib/>

【外国語サイト】 ※中国語のサイトを見るには、中国語のフォント（GB・Big5など）が必要です。

故宮《寒泉》古典文献全文検索資料庫 <http://210.69.170.100/s25/index.htm>

新語絲 <http://www.xys.org/>

中央研究院漢籍電子文獻 <http://www.sinica.edu.tw/ftms-bin/ftmsw3>

中央研究院歷史語言研究所 <http://www.ihp.sinica.edu.tw/final/>

中華文化網 <http://www.geocities.com/Area51/Hollow/3198/>

中国文化資料集 <http://www.cs.ust.hk/~khchung/literature/>

全唐詩網頁 <http://members.xoom.com/tangpoetry/>

元智大学中国文学網路研究室 宋詩 <http://cls.admin.yzu.edu.tw/QSS/HOME.HTM>

※中国文学専攻のホームページから入るリンク集が便利。

11 中国文学基本書解説（50音順）

楽府詩集【がふししゅう】

宋の郭茂倩が編纂した上古から唐五代までの楽府・歌謡の総集。収録作品数は、作者の明らかなもの577人3,793首、作者の不明なもの1,497首。古代から中世までの楽府はほぼ網羅しており、全体は楽府の性格により12に分類され、楽府題ごとに詳しい解説が付いている。中華書局「中国古典文学基本叢書」から標点本が出ている。また、中津浜涉『楽府詩集の研究』（汲古書院）には、北京図書館所蔵の最良のテキストである宋本の影印も掲載されており参考になる。なお、余冠英『楽府詩選』（人民文学出版社）、黄節『漢魏楽府風箋』（人民文学出版社）、王先謙『漢魏歌辞文箋正』（芸文印書館）等も利用したい。

玉台新詠【ぎょくだいしんえい】

梁の簡文帝の命を受けて、陳の徐陵が編集した艶詩の選集。中華書局「中国古典文学基本叢書」から標点本の清の呉兆宜『玉台新詠箋注』が出ている。小尾郊一・高志真夫編『玉台新詠索引』（山本書店）がある。

芸文類聚【げいもんるいじゅう】

唐の高祖の勅命により、欧陽詢らが編纂した類書。46部門に分類されている。本書は長い間詩文を作るために利用されてきたが、現在では、主に原本が失われて見ることでできない唐代以前の文献資料の宝庫として極めて重要な書物になっている。利用するには、上海古籍出版社の索引付きの圈点本が便利である。なお、類書については、胡道静『中国古代的類書』（中華書局）を参照のこと。

広韻【こういん】

北宋の陳彭年らが勅命によって編纂した韻書。正式には『大宋重修広韻』といい26,194字を206韻に分類して収める。六朝から唐代の中古漢語を知るためには不可欠な資料である。唐代の詩人は、本書のもとになった『切韻』を作詩の基準としたが、『切韻』の原本はなくなってしまったため、『広韻』の存在は重要である。普通使用するには、周祖謨の校勘による『宋本広韻』（芸文印書館）が良いが、より詳細なものとしては、林尹『新校正切宋本広韻』（黎明文化事業公司）、余迺永『互註校正宋本広韻』（聯貫出版社）、さらにそれを増補した『新校互註宋本広韻』（中文大学出版社）がある。なお、趙誠『中国古代韻書』（中華書局）を参照のこと。

爾雅【じが】

中国最古の辞書。戦国時代から前漢にかけて徐々に成立したと言われる。積詁・積言・積訓では動詞・形容詞・代名詞等を集め、それ以下は積器・積天・積木・積蟲等、その篇名のもとそれに関する名詞を集めている。晋の郭璞が注を付けているが、それを含んだ清の郝懿行『爾雅義疏』が便利である。『爾雅義疏』は中国書店・芸文印書館の影印があるが、いまだ標点本はない。近人徐朝華の『爾雅今注』（南開大学出版社）が索引付きの横組標点本であるが、『義疏』の意見はあまり取り入れられていない。テキストとしては様々あるが、宋監本を底本として影印し周祖謨が校勘を付けた『爾雅校箋』（江蘇教育出版社）がよいだろう。

四庫全書【しこぜんしょ】

清の乾隆帝の敕命により、紀昀が総編纂官となり、230人の学者が編集に携わって、1781年に完成した四部分類による一大叢書。『永樂大典』に収める書、宮中の蔵書、地方で発見された書、献上された書、巷間に流布している書等あらゆる書物の中から重要なものを選び出してこれを存書とし、校定して写本を作り上げた。それを四部に分類し四つの書庫に分けて保存したのである。10年かかって3,462種、79,582巻の書を写して完成した。写本は全て七部作られ、朝廷用としてそれぞれ宮城内の文淵閣、奉天の文溯閣、熱河避暑山莊内の文津閣、圓明園内の文源閣に、江南の学者用に揚州大觀堂内の文匯閣、鎮江金山寺内の文宗閣、杭州聖因寺内の文瀾閣に収められた。七閣中、文匯・文宗の二閣は太平天国の乱で、文源閣は義和團の乱で焼失し、他のものも引き続き戦乱により移動を余儀なくされた。現在では、文淵閣のものは台北故宫博物院に、文溯閣のものは蘭州の図書館に、文津閣のものは北京図書館に、文瀾閣のものは浙江図書館にそれぞれ保管されている。数社から文淵閣本の影印が出版されているが、写本であることもあり、その歴史的価値に比ベテキストにするには問題がある。「四庫全書」以外では容易に見られない書に限り利用すべきであろう。立命館大学では図書館に影印文淵閣本及び文津閣本『四庫全書』と『四庫全書存目叢書』がある。

四庫全書総目（四庫提要）【しこぜんしょそうもく（しこていよう）】

乾隆帝の敕命により紀昀が中心となって編集した。『四庫全書』の編纂に際し、各書の冒頭につけた提要（著者の小伝、その書の沿革・眞偽、内容の大略等を要約した解題）のみを総合したもの。合計存書3,457種79,070巻、存目書6,766種93,516巻に及んでいる。縮印・影印し索引を付けたもの、および標点本（横組簡体字）が中華書局から出版されている。なお、利用に当たっては、胡玉縉『四庫全書総目提要補正』（中華書局）等、また、そのうち幾つかについては余嘉錫『四庫提要弁証』（中華書局）を参照したい。

詩品【しひん】

梁の鍾嶸が著した詩の評論書。古詩十九首、及び漢より梁までの詩人122人の五言詩を、上・中・下の三品に分けて品評を加えている。三品それぞれに序が付いており、約40人の詩人については先ずここで批評しているのが、本文に劣らず重要な部分である。本書は詩論書の先駆けであり、『文心雕龍』とともに、中国文学評論史の上で最も重要な位置を占めている。上海古籍出版社「中国古典文学叢書」の曹旭『詩品集注』が利用しやすい。また、高木正一『鍾嶸詩品』（東海大学出版会）も参考になる。

四部叢刊【しぶそうかん】

張元濟らが中心となって、上海の商務印書館が出版した主要な古典の影印本。初篇は1919年、続編は1934年、三篇は1935年に刊行された。善本を提供することに目標を置いており、商務印書館が秘蔵する涵芬樓蔵本、江南図書館蔵本、北京図書館蔵本、及び各地の家蔵本等を底本に影印している。しかし、印刷の過程で修正を加えている箇所もあり注意を要する。現在では、なお優れた版本も発見されており、何でも「四部叢刊」のテキストを利用すればよいというわけではない。

共同研究室のパソコンに、検索に便利な「電子版四部叢刊」が入っている（使用にあたっては共同研究室の使用についての頁を参照）。

四部備要【しぶびよう】

1920年から1936年にかけて編纂・出版された叢書で、336種が仿宋鉛活字により印刷されている。実用性の高いものが選ばれてはいるが、まま誤植があるので注意して用いたい。中華書局から影印本が出版されている。共同研究室に配架。

十三經注疏【じゅうさんきょう（けい）ちゅうそ】

儒教研究の基礎となる十三種の經典を、その解説（注・疏）とともに集めたもの（中国最古の辞書である『爾雅』もふくまれる）。南宋末に刊行されたが、時代を経るにつれ脱誤が多くなったため、清の阮元が家蔵の宋本等をもとに校勘し刊行した。これが現在一般に「十三經注疏」と呼ばれるものである。使用に当たっては、芸文印書館の影印本（八冊）よりも中華書局が縮印・影印した二冊本が字が小さいながらも便利。対応する索引として葉紹鈞編『十三經索引（重訂本）』（中華書局）、完全な一字索引の『十三經新索引』（中国廣播電視出版社）がある。また、最近、北京大学出版社と新文豊出版公司（台湾）から繁体字校点本が出版された。

- 1 周易正義（魏）王弼・（晋）韓康伯注（唐）孔穎達正義
- 2 尚書正義（漢）孔安国伝（唐）孔穎達正義
- 3 毛詩正義（漢）毛亨伝（漢）鄭玄箋（唐）孔穎達正義
- 4 周礼注疏（漢）鄭玄注（唐）賈公彦疏
- 5 儀礼注疏（漢）鄭玄注（唐）賈公彦疏
- 6 礼記正義（漢）鄭玄注（唐）孔穎達正義
- 7 春秋左伝正義（晋）杜預集解（唐）孔穎達正義
- 8 春秋公羊伝（漢）何休注疏（唐）徐彦解詁
- 9 春秋穀梁伝（晋）范甯注（唐）楊子勛疏
- 10 論語注疏（魏）何晏集解（宋）邢昺疏
- 11 孟子注疏（漢）趙岐注（宋）孫奭疏
- 12 孝經注疏（唐）玄宗御注（宋）邢昺疏
- 13 爾雅注疏（晋）郭璞注（宋）邢昺疏

諸子集成【しよししゅうせい】

1935年初版。国学整理社が編集し世界書局が出版した。各書に優れた注釈書を用いており、例えば、劉宝楠『論語正義』、焦循『孟子正義』、郭慶藩『莊子集釈』といった類いである。鉛活字の圈点本で出版されたが、現在は中華書局・上海書店・河北人民出版社から重印されている。

新編諸子集成【しんぺんしよししゅうせい】

中華書局が「諸子集成」にならい、それを大幅に増補し標点本の形で出版しているシリーズ。前述の『論語正義』『孟子正義』も含まれ、新式標点が施された。孫詒讓『墨子問詁』、王先謙『荀子集解』、楊伯峻『列子集釈』、朱謙之『老子校釈』、劉文典『淮南鴻烈集解』等有用なものが多い。また、1973年、湖南省長沙馬王堆漢墓から出土した帛書『老子』甲本・乙本をもとに詳細な校勘を行った『帛書老子校注』といったものもシリーズに含まれている。

説文解字（説文）【せつもんかいじ（せつもん）】

後漢の許慎が著した中国最古の字書。漢字の造字法を六書に分類し、540の部首を設け、9,353字を篆書で出し解説を加える。甲骨文字の存在は知られていなかったため、その字解には誤りが多いが、文字学の聖典として権威をもってきた。テキストとしては宋の徐鉉『説文解字』（大徐本）、徐鍇『説文解字繫伝』（小徐本）がある。注には清の段玉裁『説文解字注』があり、一般的に優れているとされる。上海古籍出版社の影印本がよい。また、稀覯の注釈書まで網羅した丁福保『説文詁林』（中華書局）は便利である。漢字そのものの研究、甲骨文・金文を使用する中国古代の研究には、白川静先生の『説文新義』『説文新義・通論篇』（五典書院・著作集別巻）を参照したい。

全上古三代秦漢三国六朝文【ぜんじょうこさんだいしんかんさんごくりくちょうぶん】

清の嚴可均の編。上古より隋までの3,490余人の文章を佚文も含めて全て集め、各々出処を明らかにしている。本書に20年以上もの歳月をかけただけあって、正史から類書に至るまでくまなく渉獵している。中華書局から圈点の施された影印本が出ており、篇目・作者索引も別にあるので使いやすい。河北教育出版社から横組簡体字の点校本がある。なお、辞賦に限られるが、漢代の賦については『全漢賦』（北京大学出版社）があり、また、『先秦兩漢三国賦索引』（研文出版）は完全な一字索引であるので役立つであろう。

先秦漢魏晉南北朝詩【せんしんかんぎしんなんぼくちょうし】

24年の歳月をかけて近人逯欽立が編纂した。文字どおり上古から隋代までの詩篇の全てを集めている。依據文献と文字の異同を明示しており、その正確さはそれ以前多く利用されていた丁福保『全漢三国晋南北朝詩』を大きく凌駕している。中華書局から標点本が出ており、別に『先秦漢魏晉南北朝詩作者篇目索引』（中華書局）、中国詩文研究会編『先秦漢魏晉南北朝詩作者索引』（東方書店）が編まれている。

先秦兩漢古籍逐字索引叢刊【せんしんりょうかんこせきちくじさくいんそうかん】

商務印書館から刊行中。オックスフォード大学と香港中文大学が協力して、先秦兩漢を中心とした文献、約880万字をコンピュータ入力して作成された完全な一字索引である。索引ではあるが、標点・校勘を加えた原文をも付載しているのが特長である。魏晉南北朝古籍逐字索引叢刊も刊行中である。

全唐詩【ぜんとうし】

清の康熙帝の敕命により、彭定求らが編集した唐詩の総集。作者2,200余人、作品数48,900種にのぼる。しかし、なお遺漏があり、江戸時代の学者市河寛齋は、『文鏡秘府論』等載って伝存する詩を集めて『全唐詩逸』を著した（後に中国にもたらされて「知不足齋叢書」に収められた）。「全唐詩」については、中華書局の活字本（巻末に『全唐詩逸』を取める）が便利。別に陳尚君編『全唐詩補編』（中華書局）があり、敦煌出土の詩篇をも輯佚している。この両者に対応する張忱石『全唐詩作者索引』（中華書局）もある。近年、現代出版社・中華書局より各詩人毎の逐字索引が刊行されている。また、詩人どうしの詩の応酬については、呉汝煜編『唐五代人交往詩索引』（上海古籍出版社）があり、中華書局『全唐詩』に対応している。より専門的には、陝西人民教育出版社「唐詩研究集成」の佟培基『全唐詩重出誤集考』・陶敏『全唐詩人名考証』、山東教育出版社の楊建国『全唐詩－作校証集稿』等がある。また、平岡武夫編『唐代の詩篇』（同朋舎）は有用である。なお、著名な唐詩の選集としては、宋の周弼『三体詩』、明の李攀龍『唐詩選』等がある。前者は、七絶・五律・七律の三詩体の作品のみを494首集めたもので、特に中・晩唐期のものが多く、李白・杜甫に至っては一首も選ばれておらず、『唐詩選』と対照的である。後者は、杜甫・李白・王維といった盛唐の作品を中心に465首選んでおり、『三体詩』とは逆に中・晩唐期のものは少なく、白居易・杜牧は一首も選ばれていない。所収の詩は、全て明の高棟『唐詩品彙』（上海古籍出版社の影印本あり）から取られている。我が国での隆盛とは対照的に、中国では『四庫提要』が偽撰とみなしてからは顧みられなくなった。

宋詩鈔【そうししょう】

清の呉之振らが編集した宋代詩集の選集。宋の詩人84人の詩集が抄録されている。とはいえ、かなりの分量を集めているので、歴大な宋詩を概観するには重宝な書物である。中華書局の標点本がある。なお、北京大学出版社から『全宋詩』が、巴蜀書社から『全宋文』がそれぞれ刊行中である。

太平御覽【たいへいぎょらん】

宋の太宗の敕命により、李昉らが編纂した類書。1,000巻を55部門に分けており、太宗が一日三巻、一年間かけて閲覧したのでその名を賜ったという。既成の類書からの間接的な引用もあるが、やはり原書が失われたものも多く貴重である。テキストは、1935年に上海の商務印書館が影印した宋本がよい（「四部叢刊三編」にも収められた）。これは、945巻を宮内庁書陵部・京都東福寺所蔵の南宋蜀刊本により、欠けたところを靜嘉堂文庫に蔵する他の宋刊残本等で補ったものである。同じものが中華書局からも影印されている。哈佛燕京学社『太平御覽・太平広記篇目及引書引得』がある。

中国古典文学基本叢書【ちゅうごくこてんぶんがくきほんそうしよ】

中華書局が、主に集部の書を標点本の形で出版しているシリーズ。向宗魯『説苑校証』、『樂府詩集』等もあるが、個人の別集が主体で、仇兆鰲『杜詩詳注』等有用なものが多い。

中国古典文学叢書【ちゅうごくこてんぶんがくきほんそうしよ】

上海古籍出版社が、主に集部の書を標点本の形で出版しているシリーズ。中華書局に対抗している感があり、多く、より詳細な注の施されたものを刊行している。

中国叢書綜録【ちゅうごくそうしょそうろく】

上海図書館編、上海古籍出版社刊行。「総目」「子目」「索引」の三部からなる。「総目」では、ほとんど全ての叢書の細目が記され、「子目」では、書名ごとにそれがどの叢書に収められているかが明らかにされている。「索引」は、人名、書名のどちらからでも引け、大変便利である。中国の古籍は単行される外に、後に某かの叢書に収録されることが多いので、たいがいのものはこの書で検索できることになる。

中国歴史紀年表【ちゅうごくれきしきねんひょう】

上海人民出版社から刊行。「旧石器時代表」「新石器時代表」「夏世系表」「商世系表」「周世系表（共和以前）」の後、本書の主要部分である「西周共和以後中国歴史紀年表」が続き、西暦・十千十二支・元号・何王何年が表示されている。薄い小冊子ではあるが、複雑な春秋戦国時代の各国の年表が一覧で示され、一目で理解できるなど大変便利である。

中国歴史地図表【ちゅうごくれきしちずしゅう】

譚其驤が主編、中国地図出版社から刊行。「原始社会・夏・殷・西周・春秋・戦国時期」から「清時期」まで、全8冊に分けて出版されている。それぞれの時代の政治区域・地名等が明瞭に表されている。特長として、現代の地名が同時に色分けして表示されているので、古地名が、今のどの辺りに当たるのかが一目で分かるようになっている。各冊に地名索引が付いている。なお、香港三聯書店からは繁体字の精装本が出ている。また、全8冊の主要な部分を抜粋した『簡明中国歴史地図集』（中国地図出版社）もあり、普段利用するには、むしろこの方が便利である。

二十四史【にじゅうし】

清の乾隆帝の時に、敕命によって決定された正史の総称。『史記』『漢書』『後漢書』『三国志』『晋書』『宋書』『南齊書』『梁書』『陳書』『魏書』『北齊書』『周書』『隋書』『南史』『北史』『旧唐書』『新唐書』『旧五代史』『新五代史』『宋史』『遼史』『金史』『元史』『明史』の二十四種（いずれも中華書局の標点本あり）。正史とは、『史記』の体裁にならった紀伝体の歴史書のことである。故に、編年体で書かれた『資治通鑑』（中華書局の標点本あり）等を正史と呼ぶことはない。「二十四史」から『旧唐書』『旧五代史』『明史』を除いたものを「二十一史」と呼び、「二十四史」に『新元史』を加えたものを「二十五史」と言う。

佩文韻府【はいぶんいんぷ】

清の康熙帝の敕撰。韻で配列した類書であるため106巻となっている。韻字ごとに二字、三字、四字の熟語を並べ、熟語ごとに古典における豊富な用例を集めている。韻順の分類という点からも分かるように、元来は作詩のために作られたものであるが、現在では専ら熟語辞典としての使用が多い。利用には、商務印書館・上海書店の石印本の影印が、字が小さいながらも頭字から引ける索引付きで便利である。

文心雕龍【ぶんしんちょうりょう】

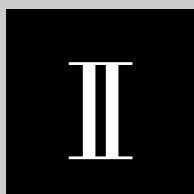
齊の劉勰が著した最初の体系的な文学評論書。50編からなり、本質論・文体論・修辭論が述べられている。上海古籍出版社「中国古典文学叢書」の詹鏞『文心雕龍義証』が利用しやすい。別に正文の付いた朱迎平編『文心雕龍索引』（上海古籍出版社）、岡村繁編『文心雕龍索引（改訂版）』（采華書林）がある。

文選【もんぜん】

梁の蕭統（昭明太子）の撰とされる中国最初の詩文選集。周代から梁代までの作者130人、作品760篇余りを選んである。唐の李善の注、呂延祚ら「五臣」の注をもって行われる。清の胡克家が刊刻した覆宋本（李善注）が芸文印書館から影印されており、逐字索引である斯波六郎編『文選索引』（京都大学人文科学研究所・上海古籍出版社）が対応する。近年、原書の宋本（南宋淳熙八年尤袤刻本）が発見され、中華書局から影印された。また、上海古籍出版社「中国古典文学叢書」から李善注の標点本も出ており見やすい。さらに、李善注には高歩瀛『文選李注義疏』（中華書局の標点本あり）があり、巻八で終わっているのは惜しまれるが、「兩都賦」「兩京賦」「三都賦」「子虛賦」「上林賦」等を読解する時は、必ず参照すべきである。利用に当たっては、富永一登編『文選李善注引書攷証』『文選李善注引書索引』（研文出版）がある。なお、駱鴻凱『文選学』（中華書局）および『文選集注』（上海古籍出版社）、清水凱夫『新文選学』（研文出版）も参照のこと。

歴代詩話【れきだいしわ】

清の何文煥が歴代の著名な「詩話」（詩に関する逸話・逸事、詩論等を記したもの）を編集した書。27種を収める。後に丁福保は『歴代詩話続編』を編集している。両者ともに、中華書局から人名索引の付いた標点本が出ている。また、散逸した宋代の詩話を丹念に集めた郭紹虞『宋詩話輯佚』（中華書局）と宋代の詩話の各書について詳細に解説した郭紹虞『宋詩話考』（中華書局）は参考になる。なお、それぞれの詩話・評論書については、全てではないが、人民文学出版社の「中国古典文学理論批評專著選輯」に収められており有用である。最近、呉文治主編『宋詩話全編』（江蘇古籍出版社）が刊行されたが、これは宋代の詩人562人について、各詩人毎に係する詩話・筆記をまとめたところに特長がある。同様のものに『明詩話全編』（江蘇古籍出版社）がある。



科目一覧と履修方法

1 科目一覧

中国文学専攻2007年度以降入学生

	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生
概 論	中国文学概論 I・II (各 2)			
文学史など		中国文学史 I～IV (各 2) 中国哲学史 I・II (各 2)		
講 読	漢語・漢文法 I・II (各 2) 【*漢語・漢文法(4)：通年】	*#中国文学講読演習 I (4)：通年 *#中国近現代文学講読演習 I (4)：通年		
特殊講義		#中国文学特殊講義 I・II (各 2) #中国近現代文化特殊講義 I・II (各 2) #中国哲学特殊講義 I・II (各 2)		
小 集 団	*中国文学研究入門(4)：通年	*中国文学基礎講読(4)：通年	中国文学講読演習 II (4)：通年 中国近現代文学講読演習 II (4)：通年	中国文学・思想演習(4)：通年 *卒業論文(4)：通年

1. 科目名のカッコ内数字は単位数を示します。
2. *のついた科目は、中国文学専攻の学生のみが受講できます。
3. #のついた科目は、重複受講ができます。
4. 下線のついた科目は、その回生でしか受講できません。
5. 【 】のついた科目は、開講していません。
6. 「漢語・漢文法(4)：通年」の単位を修得済みの学生は「漢語・漢文法 I・II (各 2)」を受講できません。

中国文学専攻2006年度以前入学生

	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生
概 論	中国文学概論 I・II (各 2)			
中 国 史		中国文学史 I～IV (各 2) 中国哲学史 I・II (各 2)		
講 読	漢語・漢文法 I・II (各 2) 【*漢語・漢文法(4)：通年】	*#中国文学講読演習 I (4)：通年		
特殊講義		#中国文学特殊講義 I～IV (各 2) #中国哲学特殊講義 I・II (各 2)		
小 集 団	*中国文学研究入門(4)：通年	*中国文学基礎講読(4)：通年	中国文学講読演習 II (4)：通年	中国文学演習(4)：通年 *卒業論文(4)：通年

1. 科目名のカッコ内数字は単位数を示します。
2. *のついた科目は、中国文学専攻の学生のみが受講できます。
3. #のついた科目は、重複受講ができます。
4. 下線のついた科目は、その回生でしか受講できません。
5. 【 】のついた科目は、開講していません。
6. 「漢語・漢文法(4)：通年」の単位を修得済みの学生は「漢語・漢文法 I・II (各 2)」を受講できません。

2 履修方法

2007年度以降入学生

必修科目（卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目）

①	中国文学講読演習Ⅰ 中国近現代文学講読演習Ⅰ	いずれか2科目8単位選択必修 (2・3回生で各4単位)
②	中国文学・思想演習 ゼミナールⅡ（テーマリサーチ）	1科目4単位選択必修
③	卒業論文	4単位必修

登録必修科目（必ず登録・受講しなければならない科目）

④	中国文学概論Ⅰ・Ⅱ	2科目4単位
⑤	漢語・漢文法Ⅰ・Ⅱ 漢語・漢文法	2科目4単位（2010年度以降入学生） 1科目4単位（2009年度以前入学生）
⑥	中国文学研究入門	1科目4単位
⑦	中国文学基礎講読	1科目4単位
⑧	中国文学講読演習Ⅱ 中国近現代文学講読演習Ⅱ ゼミナールⅠ（テーマリサーチ）	1科目4単位選択

専攻科目以外の登録必修科目

- ・リテラシー入門（教養科目：2単位） 1回生前期
- ・外国文化講読（中国語）（人文科学総合講座：4単位） 3回生通年 ※2008年度以前入学生のみ

2006年度以前入学生

必修科目（卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目）

①	中国文学講読演習Ⅰ	2科目8単位必修 (2・3回生で各4単位)
②	中国文学演習 ゼミナールⅡ（テーマリサーチ）	1科目4単位選択必修
③	卒業論文	4単位必修

登録必修科目（必ず登録・受講しなければならない科目）

④	中国文学概論Ⅰ・Ⅱ	2科目4単位
⑤	漢語・漢文法	1科目4単位
⑥	中国文学研究入門	1科目4単位
⑦	中国文学基礎講読	1科目4単位
⑧	中国文学講読演習Ⅱ ゼミナールⅠ（テーマリサーチ）	1科目4単位選択

専攻科目以外の登録必修科目

- ・リテラシー入門（教養科目：4単位） 1回生通年
- ・外国文化講読（中国語）（人文科学総合講座：4単位） 3回生通年

※社会人学生の皆さんは、②③以外の必修科目、および登録必修科目はありません。ただし、条件の許す限り、上記の必修・登録必修科目は履修してください。

受講登録方法は履修要項を参照してください。

